FUJIFILM

DIGITAL CAMERA
FinePix S602

準備編
基本編
応用編 撮影
応用編 再生
設定編
接続編

使用説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ ファインピックスS602の使い方がまとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。
http://www.fujifilm.co.jp/または http://www.finepix.com/

BL00135-100(1) J

目　次

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメディア（スマートメディアおよびマイクロドライブ）の転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分に注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- 皮膚に付着した場合：
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合：
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合：
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。
  使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

- iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の登録商標です。
- Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
  Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。
- Microdriveは、米国IBM Corporationの商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

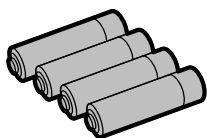
カメラの特長/付属品

カメラの特長

- 有効画素数310万画素
- "スーパーCCDハニカム" 搭載により記録画素数2832×2128（約603万画素）
- 非球面レンズを採用した高性能光学6倍ズーム「スプレンディッシュ」搭載
- スーパーCCDハニカムの特長を生かした13.2倍ハニカムズーム（光学6倍ズームと1Mモード時最大約2.2倍のなめらかな（多段階）デジタルズーム機能併用）
- 外部AFセンサー（パッシブ位相差AF）とCCD AFを併用する高速AF「ハイスピードツインAF」搭載
- 起動約3秒、撮影間隔最短約1秒と軽快な操作感
- マクロ撮影機能付きオートフォーカス（マニュアルフォーカス機能付き）
- 被写体に1cmまで近寄れるスーパーマクロ撮影が可能
- 1メガ（1280×960ピクセル）の画像を、約0.6秒間隔で最大40コマまで撮影できるMEGA連写機能
- フル画素で撮影したい瞬間を確実にとらえるサイクル連写機能
- 撮影画面内の49ポイントのエリアから選択できるエリア選択AF
- ISO800/1600の高感度撮影可能（1Mモードのみ）
- マニュアル露出を含む多彩な撮影モードで細かな条件設定が可能
- マニュアル露出時に最大15秒の長時間露出から1/10000秒の超高速シャッターが可能
- 視度調節機構付き18万画素液晶ビューファインダー
- 視野率100%の液晶モニター
- 30フレーム/秒640×480ピクセル音声付きフルフレーム動画撮影
- 外部ストロボ使用可能
- 被写体に適した条件を設定できる撮影シーン別オート撮影モード
- 撮影結果の確認に便利なプレビュー機能
- 最大画素数でも可能な連写機能
- ヒストグラム表示機能により撮影後、即座に露光状態を確認可能
- 再生ズーム機能（最大18倍）
- 撮影表現を広げる多重露光機能、黒白撮影機能
- 必要なときにワンプッシュで設定状態の一覧ができるインフォメーションボタン
- USB接続により簡単高速に画像ファイル転送が可能
- デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠

  *DCFは電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

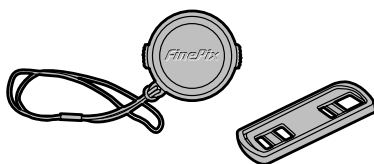
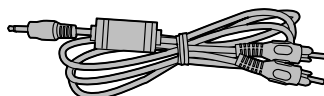
付属品

- 単3形アルカリ乾電池 LR6（4本）

- ストラップ（1本）

- キズ防止カバー（2個）

- ストラップ金具（2個）

- 金具取り付け補助具（1個）

- レンズキャップ（1個）
- レンズキャップホルダー（1個）

- A/Vケーブル
  φ2.5mmミニミニプラグ×ピンプラグ：約1.5m（1本）

- USBインターフェースセット（1式）
  - ・CD-ROM：Software for FinePix EX（1枚）
  - ・専用USBケーブル（1本）
  - ・ソフトウェア取扱ガイド（1部）
- 使用説明書（本書1部）
- 安全上のご注意（1部）
- 保証書（1部）

各部の名称

＊（　）内のページに詳しい説明があります。

電源レバー
- OFF 電源OFF
- ▶ 再生モード（P.25）
- 📷 撮影モード（P.20）

シャッターボタン

露出補正ボタン（P.44）

ストロボボタン（P.39）

連写ボタン（P.41）

コマンドダイヤル（P.17）

ホットシュー（P.54）

フォーカスリング（P.18、46）

セルフタイマーランプ（P.48）

モードダイヤル

SET	セットアップ（P.66）	P	プログラムオート（P.33）
M	マニュアル（P.36）	AUTO	オート（P.32）
A	絞り優先オート（P.35）	SP	シーンポジション（P.32）
S	シャッター優先オート（P.34）	🎥	ムービー（P.37）

EVF/LCD（ファインダーモニター切り換え）ボタン（P.16、21）

液晶ファインダー（EVF）

視度調節ダイヤル

液晶モニター（LCD）

三脚用ねじ穴

DISP（表示）ボタン（P.24）

MENU/OKボタン（P.17）

十字（▲▼◀▶）ボタン（P.17）

電池カバー（P.11）

[◉] フォーカス確認ボタン（P.46）

ズームボタン（P.16、24）

AE-L（AEロック）ボタン（P.18、45）

ストラップ取り付け部（P.8）

インジケーターランプ（P.22）

BACKボタン（P.17）

スロットカバー（P.12）

スマートメディア用スロット（P.13）

マイクロドライブイジェクトボタン（P.13）

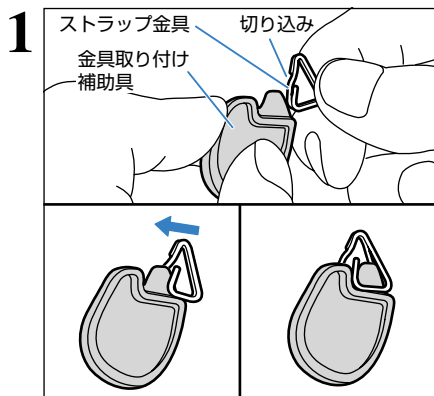
マイクロドライブ用スロット（P.13）

ストロボ調光センサー
ストロボ（P.39）
外部AFセンサー
レンズ部
マクロ（近距離撮影）ボタン（P.45）
ストロボポップアップボタン（P.16、39）
マイク
INFO（情報確認）ボタン（P.18、47、57）
ストラップ取り付け部（P.8）
（専用USB）端子（P.74、75）
スピーカー
A/V OUT（音声/映像出力）端子（P.72）
端子カバー
（ワンプッシュAF）ボタン（P.18、46）
DC IN 5V（電源入力）端子（P.72）
DC IN 5V 端子カバー
フォーカスモード切り換えレバー（P.18、46）
SHIFT（シフト）ボタン（P.19）

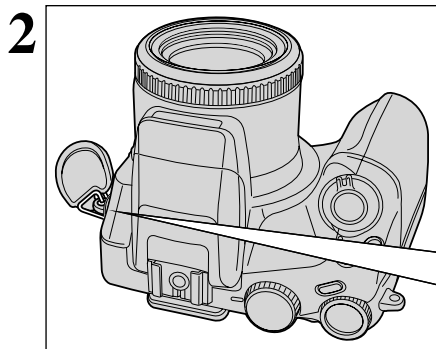
画面の文字表示例：撮影

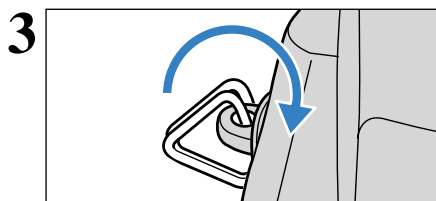
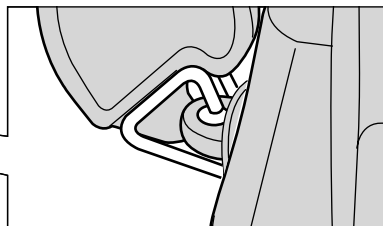
レンズキャップとストラップを取り付けます

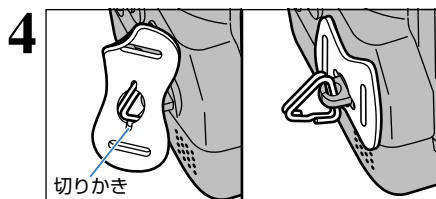
ストラップのカメラへの取り付けは、ストラップ金具をカメラに取り付けてからストラップをストラップ金具に通します。ここでは、ストラップ金具を取り付けやすくするために、金具取り付け補助具を使って説明します。

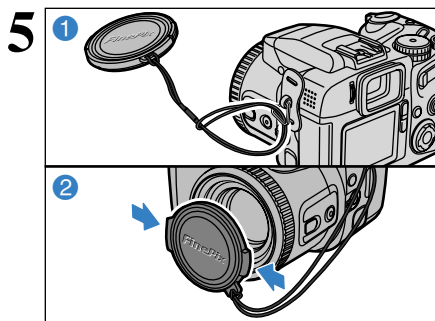
1

金具取り付け補助具およびストラップ金具の向きに注意して、ストラップ金具をスライドさせるように補助具の奥まで差し込み、ストラップ金具の切り込みを広げます。

金具取り付け補助具は、カメラからストラップ金具を取り外すときも使用しますので、大切に保管してください。

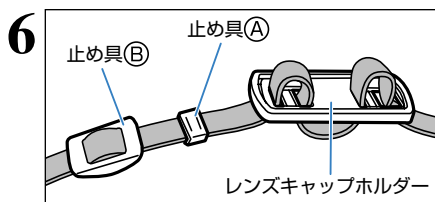
2

ストラップ金具の切り込みを、ストラップ取り付け部に引っ掛けます。しっかり引っ掛かったら、手を添えながら、金具取り付け補助具を抜きます。

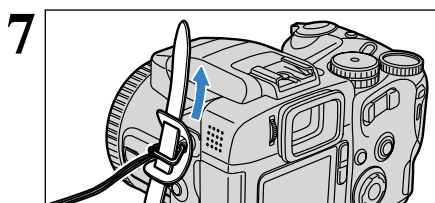
3

ストラップ金具を回転させてカチッと音がするまで完全に通します。

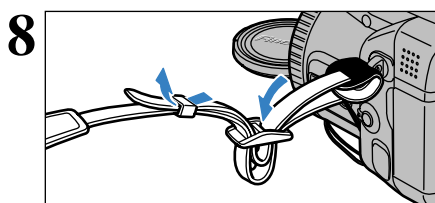
4

キズ防止カバーの黒い面をカメラに向け、切りかき部分からストラップ金具を通して、カメラに取り付けます。
反対側も同様に、**1**～**4**の手順で取り付けます。

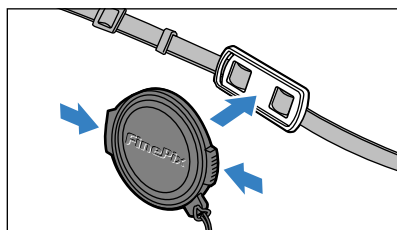
5

❶レンズキャップのヒモを端子カバー側のストラップ金具に通して取り付けます。
❷レンズキャップは左右を押しながら取り付け、取り外します。

レンズキャップをなくさないように、ヒモの取り付けをおすすめします。

6

ストラップから止め具Ⓐ・Ⓑを片側だけ外してレンズキャップホルダー、止め具Ⓐ、止め具Ⓑの順にストラップに通します。

7

ストラップをキズ防止カバーとストラップ金具に通します。

8

ストラップを止め具に通します。
反対側も同様に、**7**→**8**の手順で取り付けます。

◆レンズキャップホルダーを使う◆

撮影時はレンズキャップの写り込みを防ぐため、レンズキャップをレンズキャップホルダーに取り付けます。

電池を入れます

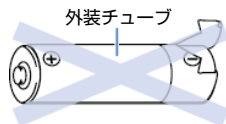
使用する電池

単3形アルカリ乾電池（4本）、または単3形ニッケル水素電池（4本 別売）

◆電池について◆

- 外装チューブが破れたりはがれている電池は絶対に使用しないでください。ショートにより電池の液もれ、発熱により重大な事故の原因となります。
- リチウム電池やマンガン乾電池、ニカド電池は使用しないでください。

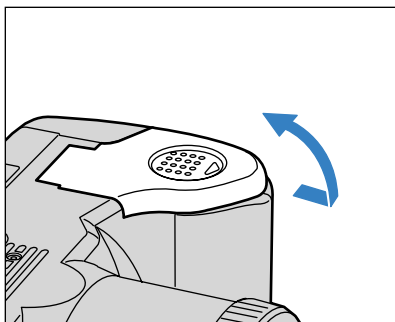
外装チューブ

- 種類の違う電池や、新しい電池と使用した電池を混ぜて使用しないでください。
- アルカリ乾電池は銘柄により電池寿命に差があり、付属のアルカリ乾電池に比べ、電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、寒冷地（＋10℃以下）では使用時間が短くなります。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると、電池作動可能時間が極端に短くなることがあります。
- 電池についてのご注意は80ページをご参照ください。

◆単3形ニッケル水素電池を使用するときは◆

ニッケル水素電池の充電には、別売の充電器（➡78ページ）が必要です。

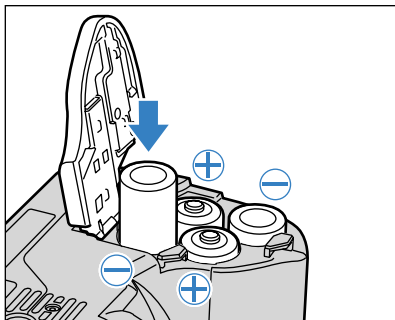
- 必ず指定の電池（弊社製）をご使用ください。指定外の電池（マンガン乾電池・アルカリ乾電池・リチウム電池）を充電すると、電池の破裂・液もれにより、火災・けがの原因になったり、周囲を汚損する恐れがあります。
- ニッケル水素電池は電極に汚れがあると充電できない場合があります。念のため充電前に電池の電極、充電器の端子を乾いたきれいな布などで清掃することをおすすめします（特に初めて充電されるときには電極と端子を清掃したあと、充電器への電池の脱着を数回繰り返した上で充電を開始することをおすすめします）。
- 新しい電池と使用した電池を、混ぜて充電しないでください。
- お使いになる前に必ず充電してください。お買上げ時や長い間使用していなかった電池は、十分に充電されないこと（電池残量警告がすぐに表示されて、電池作動可能枚数/時間が少ない場合）があります。これは電池の特性によるもので故障ではありません。充電して使用することを3〜4回繰り返すと十分に充電できるようになり、電池作動可能時間が長くなります。
- ニッケル水素電池の容量が残っている状態で充電を繰り返すと「メモリー効果」*が発生して早めに電池残量警告が出ることがあります。最後まで使いきってから充電することで正常な状態に戻ります。

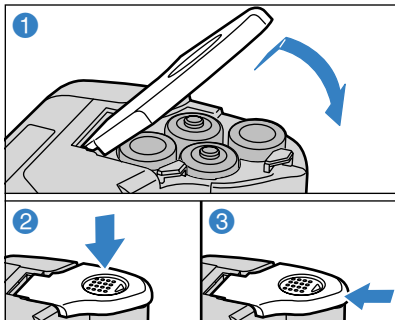
  ＊メモリー効果：電池の容量が見かけ上低下したような特性を示す現象

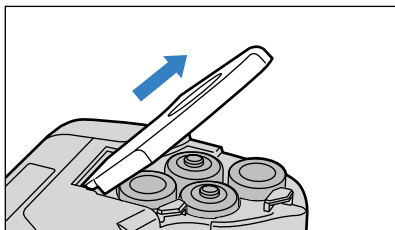
1

電池カバーをスライドさせて開けます。

❗電池カバーに無理な力を加えないでください。
❗電池カバーを開閉するときは、電池を落とさないように注意してください。

> 電池カバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メディアまたは画像ファイルなどが破壊されることがあります。

2

電池を表示に従って正しく入れます。

3

❶電池カバーを閉めます。
❷電池カバーで電池を押し込みながら、❸スライドさせます。

◆電池カバーが閉まらないときは◆

電池カバーを引っぱりながら閉めます。

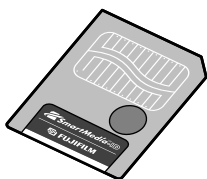
メディアを入れます

本機では記録媒体として、スマートメディアまたはマイクロドライブを使用できます。

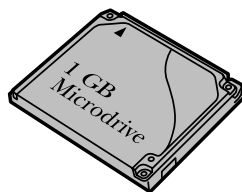
●スマートメディアとマイクロドライブを同時にセットした場合は、「優先メディア」として設定されているメディアに記録されます(➡設定編 66ページ)。
●本機で両メディア間のコピーは行えません。

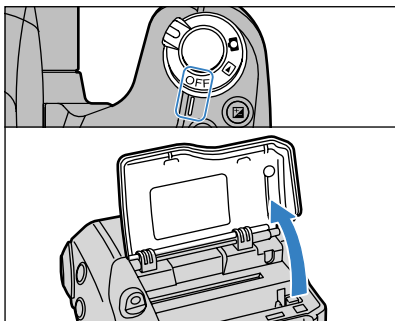
スマートメディア™(別売)

スマートメディアは必ず3.3V仕様をお使いください。

●MG-4SB(4MB)
●MG-8SB(8MB)
●MG-16SB(16MB)
●MG-16SW(16MB:ID付き)
●MG-32SB(32MB)
●MG-32SW(32MB:ID付き)
●MG-64SW(64MB:ID付き)
●MG-128SW(128MB:ID付き)

❗ライトプロテクトシールがはられていると、記録、消去ができません(➡61ページ)。
❗本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。
❗3.3V仕様品の中には「3V」または「ID」という表示のものがあります。
❗スマートメディアについてのご注意は81ページをご参照ください。

マイクロドライブ(別売)

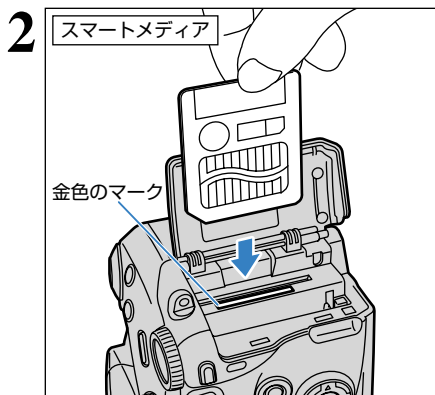
●マイクロドライブキット MK-1(340MB)
●マイクロドライブキット MK-2(1GB)

❗マイクロドライブは小型軽量のハードディスク・ドライブです。回転系記録媒体なので、スマートメディアに比べ振動や衝撃に強くありません。マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分にご注意ください(特に記録中や再生中にはご注意ください)。
❗マイクロドライブ使用時はニッケル水素電池の使用をおすすめします。
❗マイクロドライブについてのご注意は81ページをご参照ください。

1

電源レバーを“OFF”に合わせインジケーターランプが消灯していることを確認してから、スロットカバーを開けます。

❗電源が入った状態でスロットカバーを開けると、保護のため電源が切れます。

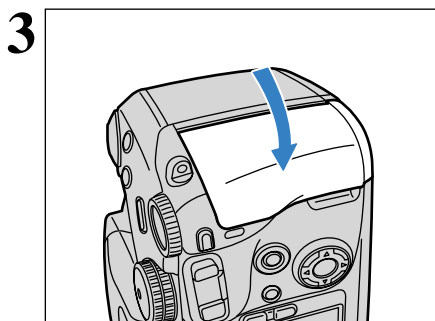
2

スマートメディア

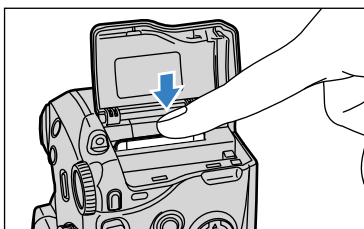
金色のマーク

スマートメディアスロットにスマートメディアを確実に奥まで差し込みます。

マイクロドライブスロットにマイクロドライブを確実に奥まで差し込みます。

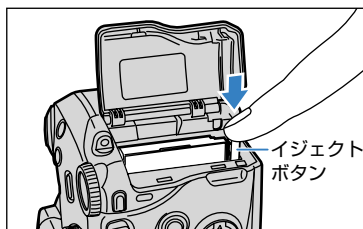
- マイクロドライブやスマートメディアのスロットに適合メディア以外を入れないでください。故障の原因となります。
- 向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。
- スマートメディアが確実に奥まで入っていないと“! CARD ERROR”が表示されます。

3

スロットカバーを閉めます。

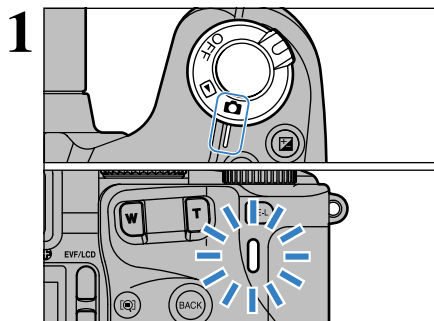
◆スマートメディアの交換◆

スロットカバーを開け、スマートメディアを「軽く押し込む」と、スマートメディアが少し飛び出しますので、簡単に取り出せます。

- スマートメディアを保管するときは、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。

◆マイクロドライブの交換◆

スロットカバーを開け、イジェクトボタンを押し、マイクロドライブを取り出します。

- マイクロドライブを保管するときは、必ず専用の保護ケースに入れてください。

電源のON/OFF・日時の設定

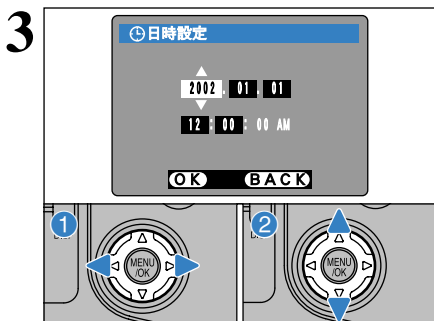
1

電源を入れるには電源レバーを“📷”または“▶”に合わせます。電源を入れるとインジケーターランプ［緑］が点灯します。
電源を切るには“OFF”に合わせます。

“📷”モードのときはレンズ部が動きます。精密部品のため、手で押さえないでください。“! ZOOM ERROR”や“! FOCUS ERROR”が表示され誤作動や故障の原因になります。また、レンズに指紋がつかないようにご注意ください。撮影画の画質低下の原因になります。

2

初めて電源を入れると、日付がクリアされています。“MENU/OK”ボタンを押して日時を設定します。

❗あとで設定するときは“BACK”ボタンを押します。
❗日時を設定しないと電源を入れるたびに確認画面が表示されます。

3

❶“◀▶”で年・月・日・時・分を選びます。
❷“▲▼”で修正します。

❗“▲”または“▼”を押し続けると数字が連続して変わります。
❗時刻表示で“12:00:00”を越えると、自動的にAM/PMが切り換わります。

4

“MENU/OK”ボタンを押すと、撮影または再生モードになります。

❗秒は設定できませんが、時刻を正確に合わせたいときは時報のゼロ秒時に“MENU/OK”ボタンを押します。
❗設定した日時は、ACパワーアダプターを接続または電池を入れて約1時間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約10日間保持されます。

◆電池残容量の確認◆

① 表示なし
② [電池アイコン] 赤点灯
③ [電池アイコン] 赤点滅

電源を入れ電池容量表示を確認します。
❶電池の残容量は十分です（表示なし）。
❷電池の残容量が不足しています。まもなく電源が切れますので、電池の交換をおすすめします。
❸電池の残容量がありません。ただちに表示が消えて動作を終了します。電池を交換してください。

❗動画撮影中に[電池アイコン]赤点滅になると自動的に撮影が停止します。
❗残容量のない電池（[電池アイコン]赤点滅）は、レンズが収納されないで電源が切れるなど故障の原因となるため、再利用しないでください。

◆オートパワーセーブ機能◆

機能有効時は、約30秒間操作をしないと画面などが消え、消費電力を抑えます（➡71ページ）。その後しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。電源を入れ直すには、いったん電源レバーを“OFF”に合わせ、再度“[カメラ]”または“[再生]”に合わせます。

撮影可能枚数について

画面に撮影可能枚数が表示されます。

❗ピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）の変更は、67ページをご参照ください。
❗工場出荷時設定は、1M（ピクセル）、N（クオリティー：NORMAL）です。

■メディア標準撮影枚数

［被写体によって記録されるデータ量が一定ではないため、記録後の撮影可能枚数が減らないか、または2コマ減る場合があります。また、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。］

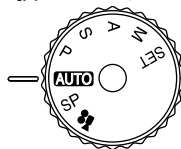
ピクセル（記録画素数）	6M 2832×2128（約603万）				3M 2048×1536（約315万）		1M 1280×960（約123万）		VGA 640×480（約31万）
クオリティー	HI	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	NORMAL
画像1枚のファイルサイズ	約18MB	約2.4MB	約1.2MB	約460KB	約1.3MB	約590KB	約620KB	約320KB	約130KB
MG-4S（4MB）	0	1	3	8	2	6	6	12	30
MG-8S（8MB）	0	3	6	17	6	13	12	25	61
MG-16S（16MB）	0	6	13	33	12	26	25	49	122
MG-32S（32MB）	1	13	28	68	25	53	50	99	247
MG-64S（64MB）	3	26	56	137	50	107	101	198	497
MG-128S（128MB）	7	53	113	275	102	215	204	398	997
MK-1（340MB）	19	147	311	765	279	589	566	1119	2729
MK-2（1GB）	59	443	938	2190	842	1729	1642	3285	8213

＊メディアをフォーマットした状態の撮影可能枚数です。

●ストロボポップアップ

ストロボ撮影するときに、ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。

●撮影モードの切り換え

モードダイヤルを回すことで撮影モードを切り換えできます。

画像撮影

- AUTO（オート撮影）
- SP（シーンポジション）
- P（プログラムオート）
- S（シャッター優先オート）
- A（絞り優先オート）
- M（マニュアル撮影）

動画撮影

- （ムービー（動画）撮影）

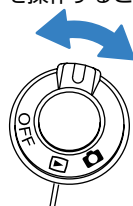
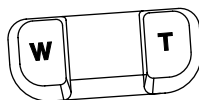
設定

- SET（セットアップ）

●電源ON/OFFと撮影／再生の切り換え

電源レバーを操作することで切り換えできます。

●ファインダー（EVF）とモニター（LCD）の切り換え

“EVF/LCD” ボタンを押すたびに切り換えできます。撮影状況に応じて使用します。

●ズーム操作

撮影時：望遠にするにはT側を押します。
　　　　広角にするにはW側を押します。

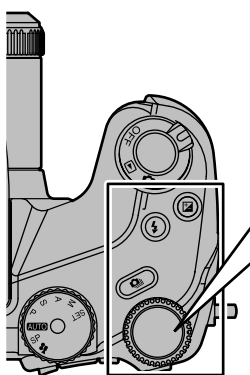
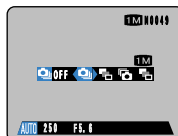
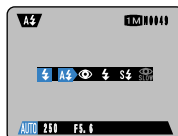
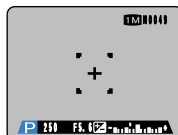
再生時：拡大するにはT側を押します。
　　　　等倍にするにはW側を押します。

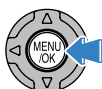
●コマンドダイヤル

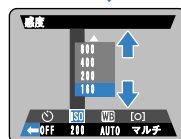
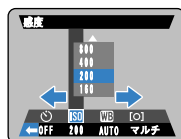
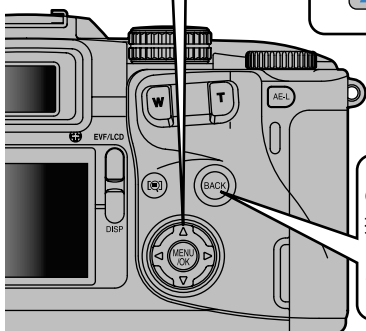
撮影モードでコマンドダイヤルを回すと、プログラムシフトやシャッタースピード設定、絞り設定などができます。

露出補正
“ ” ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

ストロボ
ストロボをポップアップして“ ”ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定します。

連写
“ ” ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定します。

●メニューの操作

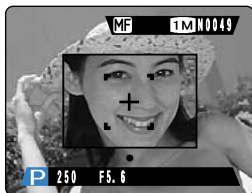
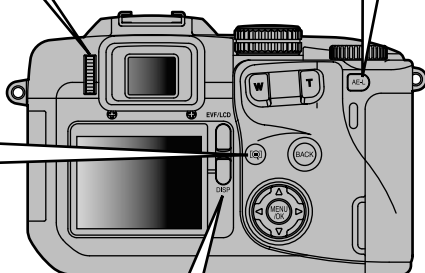
①メニューの表示
“MENU/OK” ボタンを押します。

②メニューの選択
十字ボタンの左、右を押します。

③設定の選択
十字ボタンの上、下を押します。

④設定の決定
“MENU/OK” ボタンを押します。

●BACKボタン

操作を途中でやめるときなどに、このボタンを押します。

使用説明書では、上、下、左、右を三角マークで表します。上・下のときは“▲▼”となり、左・右のときは“◀▶”となります。

●視度調節ダイヤル
ファインダー内の像を見やすくします。
AFフレームが最もシャープに見える位置に合わせてください。

●フォーカス確認ボタン
このボタンを押すと、画面中央部が拡大表示されます。細部のピントを確認するときに使用します。

●AE-Lボタン
ボタンを押している間、露出を固定します。

●DISPボタン
画面の表示を切り換えます。

撮影モード：文字表示あり → フレーミングガイド表示 → 文字表示なし → 文字表示あり

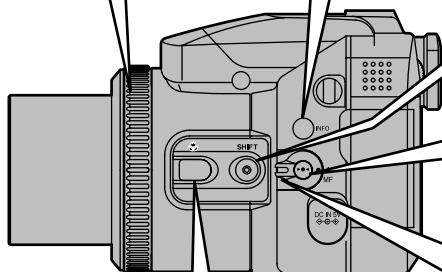
再生モード：文字表示あり → 文字表示なし → マルチ再生 → 文字表示あり

●フォーカスリング
ピントを調節します。
MFでのみ使用できます。

●INFOボタン
ボタンを押している間、情報を表示します。
撮影モード：現在の設定値（ISO感度、シャープネスなど）を表示します。
再生モード：表示している画像の情報を確認できます。

●SHIFTボタン
次ページ参照。

●ワンプッシュAFボタン
いったんAFでピント合わせします。MFでのみ使用できます。

●フォーカスモード切り換えレバー
AF（オートフォーカス）、MF（マニュアルフォーカス）を切り換えます。

●マクロボタン
近距離撮影で使用します。このボタンを押すと、次のようにモードが切り換わります。
マクロ→スーパーマクロ→マクロ解除

撮影可能距離：	
マクロ	10cm～80cm
スーパーマクロ	1cm～20cm
マクロ解除	広角側：50cm～無限遠、望遠側：90cm～無限遠

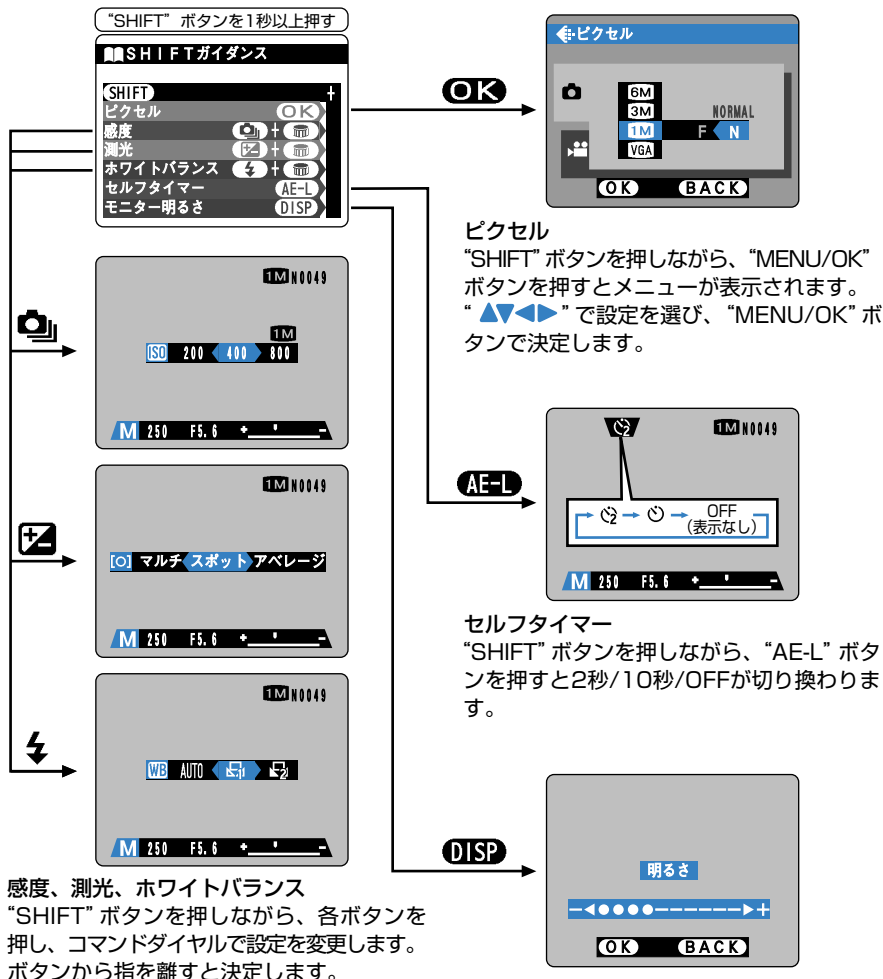
●SHIFTボタン

“SHIFT” ボタンを1秒以上押すと、SHIFTガイダンスが表示されます。表示されている組み合わせでボタンを押すと、対応する設定項目に素早くアクセスすることができ、便利です。
モードによって、使用できる機能は違います。以下の例は撮影モードの手順です。

ピクセル
“SHIFT” ボタンを押しながら、“MENU/OK” ボタンを押すとメニューが表示されます。“▲▼◀▶” で設定を選び、“MENU/OK” ボタンで決定します。

セルフタイマー
“SHIFT” ボタンを押しながら、“AE-L” ボタンを押すと2秒/10秒/OFFが切り換わります。

感度、測光、ホワイトバランス
“SHIFT” ボタンを押しながら、各ボタンを押し、コマンドダイヤルで設定を変更します。ボタンから指を離すと決定します。

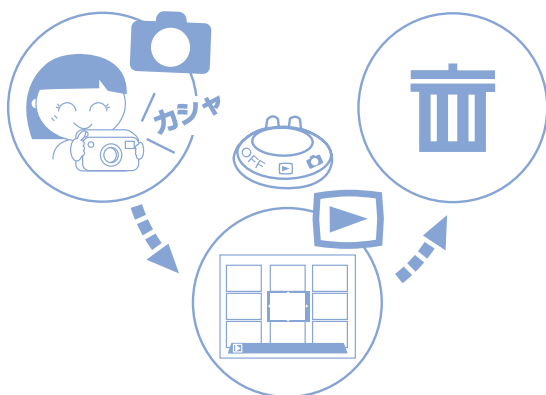
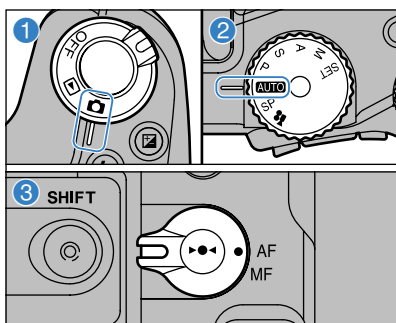
モニター明るさ・音量調節
“SHIFT” ボタンを押しながら、“DISP” ボタンを押すとメニューが表示されます。“▲▼” で項目を選び、“◀▶” で設定を変更します。“MENU/OK” ボタンで決定します。ただし、音量は再生モードでのみ調節できます。

各設定項目の詳細については、以下のページをご覧ください。

ピクセル設定	67ページ
セルフタイマー	48ページ
感度	49ページ
測光	52ページ
ホワイトバランス	50ページ

実際に操作してみましょう

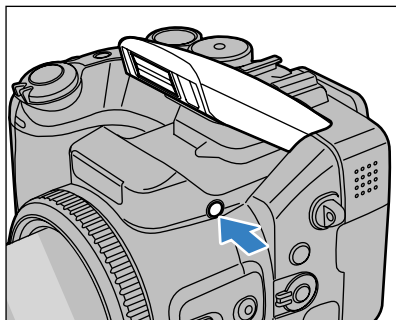
準備編をお読みいただき、撮影の準備が終わっていることと思います。
基本編では、「撮る」➡「見る」➡「消す」という基本操作を説明していきます。
実際に操作しながら、基本操作をマスターしましょう。

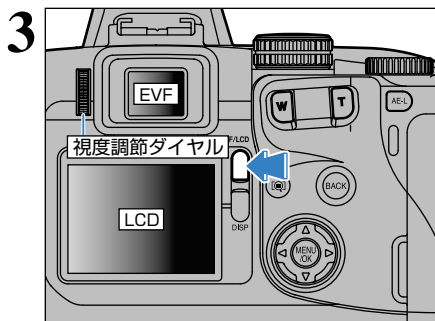
撮影してみましょう（オート撮影）

1

❶電源レバーを“📷”にし、❷モードダイヤルを“AUTO”に合わせます。❸フォーカスモード切り換えレバーを“AF”に合わせます。

●撮影可能距離
　広角側：約50cm〜無限遠
　望遠側：約90cm〜無限遠

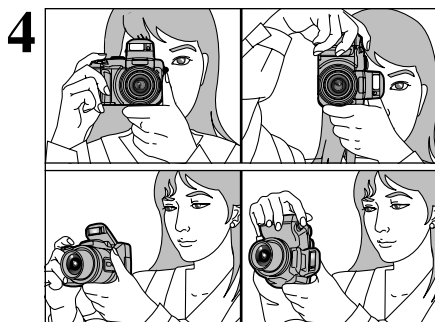
- 近距離撮影ではマクロを設定してください（➡45ページ）。
- レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は、79ページを参照してレンズをきれいにしてください。

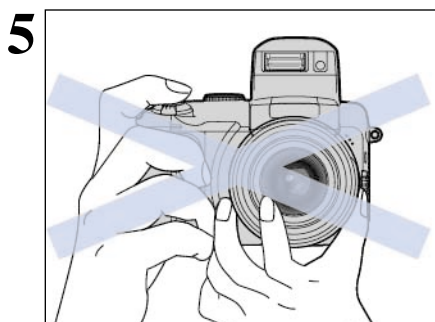
2

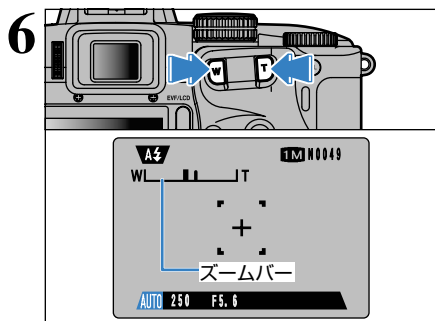
ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。

- “! CARD ERROR”“! WRITE ERROR”“! READ ERROR”“! CARD NOT INITIALIZED”が表示された場合は、82ページをご参照ください。
- ストロボをポップアップしたときや、ストロボ撮影をした場合、ストロボを充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときインジケーターランプが橙色の点滅をします。
- 雪のときやほこりの多い環境でストロボ撮影すると、ストロボの反射で画像に白点が写ることがあります。

3

“EVF/LCD” ボタンを押すたびに、ファインダー（EVF）とモニター（LCD）のどちらを使用するか切り換えできます。ファインダー（EVF）内のAFフレームが見にくいときは、視度調節ダイヤルで調節してください。

EVF/LCDの切り換え設定は、モード切り換え・電源OFFでも保持されます。

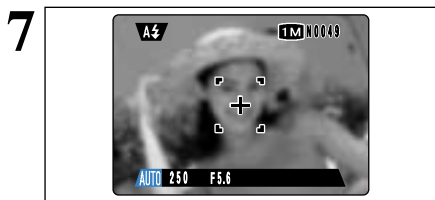
4

両脇を締め、両手でカメラを構えます。

5

レンズ、AFセンサー、ストロボ調光センサーやマイクに、指やストラップが掛からないようにしてください。指やストラップが掛かると、適正な撮影ができないことがあります。

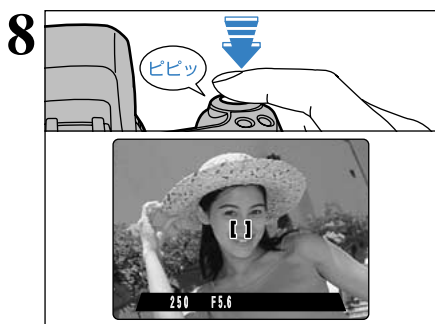
6

被写体を大きく写したいときは、“T”（望遠）を押します。広い範囲を写したいときは、“W”（広角）を押します。このとき画面に “ズームバー” が表示されます。

- ●光学ズーム焦点距離（35mmカメラ換算）
  約35mm～210mm相当
  最大ズーム倍率 6倍

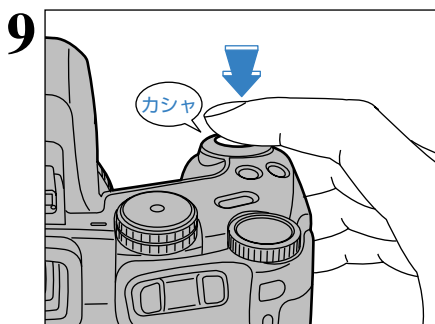
! 光学ズームとデジタルズーム（➡24ページ）の切り換わり時は、いったんズームが止まります。もう一度同じ方向に押すと切り換わります。

7

被写体がAF（オートフォーカス）フレーム全体を満たすようにねらいます。

❗被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、AF/AEロック撮影を行ってください（➡23ページ）。

8

シャッターボタンを半押しすると、“ピピッ”と音が鳴りピントが合います。そのとき画面のAFフレームが小さくなり、シャッタースピード/絞り値が決定されます。

❗撮影前に画面で見る画像と実際に記録される画像は、明るさや色などが異なる場合があります。必要に応じて、再生してご確認ください（➡25ページ）。
❗“ピピッ”と音が鳴らずに画面に“❗AF”が表示されたときは、ピントが合っていません。
❗シャッターボタンを半押しすると、一時的に画面の映像が止まりますが記録される画像とは異なります。
❗“❗AF”が表示された場合（暗くてピントが合わないなど）、被写体から2m程度離れて撮影してください。

9

半押しのままさらにシャッターボタンを押し込むと（全押し）、“カシャ”と音が鳴り撮影されます。

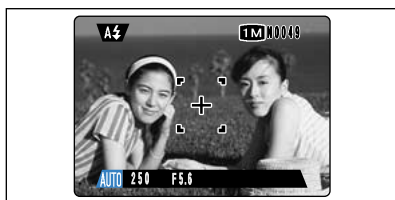
❗撮影可能枚数が「黄色」のときは、「白色」になるまで撮影できません。
❗シャッターボタンをいっきに全押しすると、AFフレームは変化せず“ピピッ”音は鳴りませんが撮影されています。

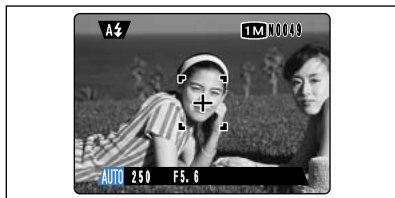
■インジケーターランプ表示について

表　示	状　態
緑点灯	準備完了（撮影可能）
緑点滅	AF・AE動作中または手ブレ、AF警告（撮影可能）
緑・橙の交互点滅	メディアに記録中（撮影可能）
橙点灯	メディアに記録中（撮影不可）
橙点滅	ストロボ充電中（ストロボ発光しません）
赤点滅	● メディアについての警告 未挿入、未フォーマット、フォーマット異常、ライトプロテクトシール（スマートメディア）がはられている、空き容量がない、メディア異常 ● レンズ動作異常

＊画面に詳しい警告が表示されます（➡82、83ページ）。

AF/AEロック撮影

1

このような構図では被写体（この場合は人物）がAFフレームから外れています。このまま撮影すると人物にピントが合いません。

2

被写体がAFフレームに入るようにカメラを少し動かします。

3

そのままシャッターボタンを半押し（AF/AEロック）し、画面のAFフレームが小さくなり、“シャッタースピード/絞り値”が表示（インジケーターランプ［緑］が点滅から点灯）されるのを確認します。

4

シャッターボタンを半押し（AF/AEロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

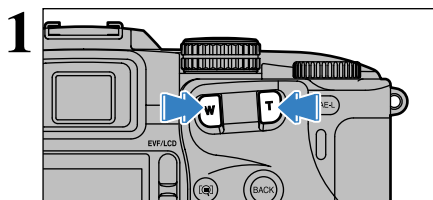
! AF/AEロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。
! AF/AEロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AF/AEロックをうまく活用しましょう。

◆AF（オートフォーカス）/AE（オートエクスポージャー）ロック◆

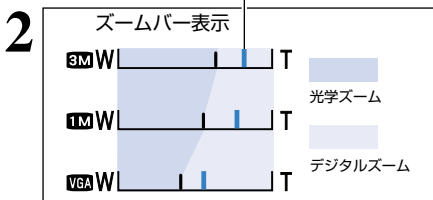
このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影するときれいに撮影できます。

● AFでピントが合わず、AF/AEロックで適切な露出で撮影できない場合
AFフレームを主被写体に合わせてAEロック（➡45ページ）します。AFフレームをほぼ同じ距離の他の被写体に合わせシャッターボタンを半押しし、構図をし直して撮影します。

デジタルズーム

1

ピクセル（画像サイズ）設定が"3M""1M"か"VGA"の場合はデジタルズームできます。

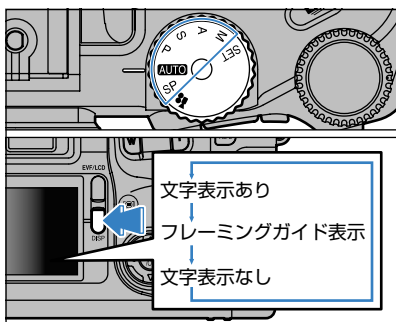
- "6M"ではデジタルズームはできません。
- ピクセル（画像サイズ）設定の変更（➡67ページ）。
- ズームしてピントがずれた場合、シャッターボタンを半押ししてください。

2

ズームバーの"▍"の位置でズームの状態が分かります。

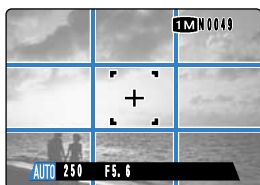
- 区切りより右の場合はデジタルズーム、区切りより左の場合は光学ズームです。
- ズームボタンを押すと"▍"が左右に動きます。
- デジタルズームと光学ズームを切り換える際に、いったん"▍"が停止します。もう一度同じ方向に押すと、"▍"が動いて切り換わります。

●デジタルズーム焦点距離（35mmカメラ換算）
3M：約210mm〜約294mm相当　最大ズーム倍率 1.4倍
1M：約210mm〜約462mm相当　最大ズーム倍率 2.2倍
VGA：約210mm〜約924mm相当　最大ズーム倍率 4.4倍

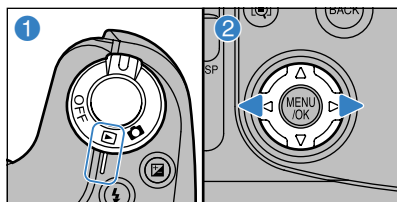
- 光学ズームは約35mm〜約210mm相当（35mmカメラ換算）です。

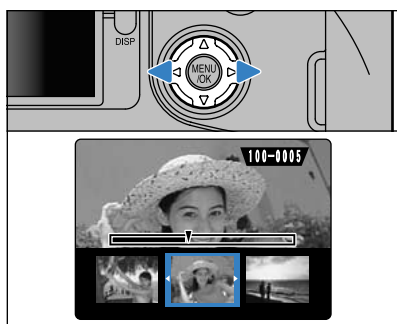
ベストフレーミング

"AUTO・SP・P・S・A・M"の撮影モードで設定できます。
"DISP"ボタンを押すごとに画面の表示が切り換わります。"DISP"ボタンを押して"フレーミングガイド"を表示します。

- フレーミングガイドは画像に記録されません。
- 縦横3分割フレームのラインは、縦横の記録画素数の3分割の目安です。プリントすると3分割の位置から少しずれる場合もあります。

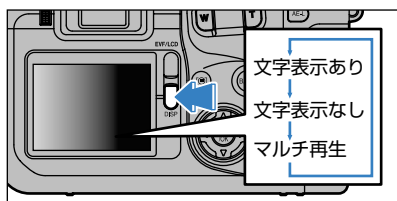
縦横3分割フレーム

主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせて使用します。
被写体の大きさやバランスを見ながら、意図的な構図で撮影できます。

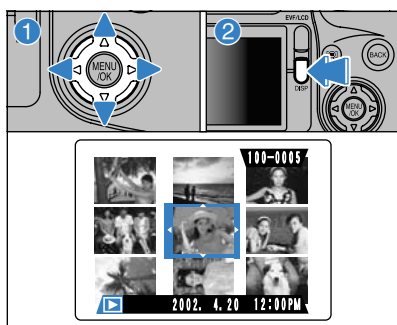
◆重要◆
必ずAF/AEロックを使って構図を決めてください。AF/AEロックをしないとピントが合わないことがあります。

画像を見るには(再生)

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“▶”順送り、“◀”逆送りで画像を見ることができます。

❗電源レバーを“▶”に合わせたときは、最後に撮影した画像が再生されます。
❗再生時にレンズが出ているときは、約30秒間操作しないとレンズ保護のため、レンズが格納されます。

画像の早送り

再生中に“◀”または“▶”を約1秒間押し続けると、画像を早送りできます。

❗メディア内のおおよその再生位置が、目安となるバーで表示されます。

マルチ再生

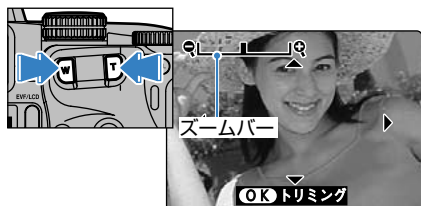
再生モードでは“DISP”ボタンを押すごとに画面の表示が切り換わります。“DISP”ボタンを押してマルチ再生(9コマ)にします。

❶“▲▼◀▶”でカーソル(橙色の枠)を動かして、コマを選べます。数回“▲”か“▼”を押すと次のページに切り換わります。
❷もう一度“DISP”ボタンを押すと、選んだ画像を大きく表示することができます。

◆再生できる静止画について◆

本機で記録した静止画、または弊社製デジタルカメラ FinePixシリーズ、CLIP-IT80/50、DS-30/20/10およびDS-260HD/250HD/230HD、あるいはそのほかのDCF対応カメラで、3.3V仕様のスマートメディアおよびマイクロドライブに記録した静止画(一部の非圧縮を除く)が再生できます。

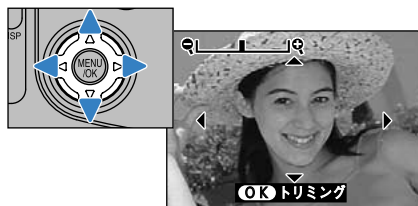
1コマ再生

再生ズームを解除するには
“BACK” ボタンを押します。

再生ズーム

1コマ再生中にズームボタンを押すと静止画をズーム（拡大）します。このとき“ズームバー”が表示されます。

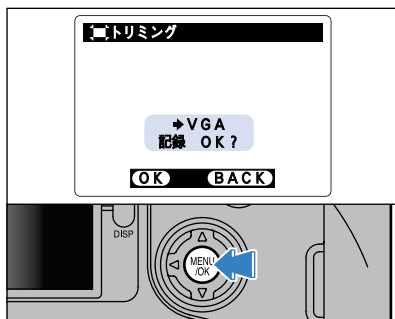
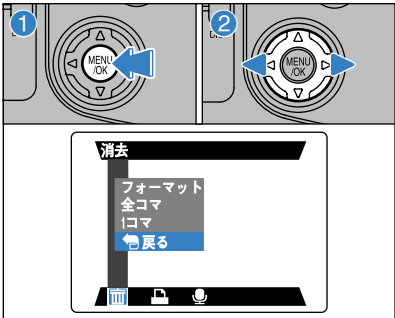
●ズーム倍率
6M 2832×2128ピクセル画像：最大18倍
3M 2048×1536ピクセル画像：最大13倍
1M 1280×960ピクセル画像　：最大8倍
VGA 640×480ピクセル画像　　：最大4倍

❗再生ズーム中はマルチ再生はできません。

移動

“▲▼◀▶” を押すと、見える範囲を移動できます。

ズーム倍率によって保存される画像サイズが変わり、VGAになる場合は “OK トリミング” の文字が黄色になります。
さらにVGA以下になると “OK トリミング” 表示が消えます。

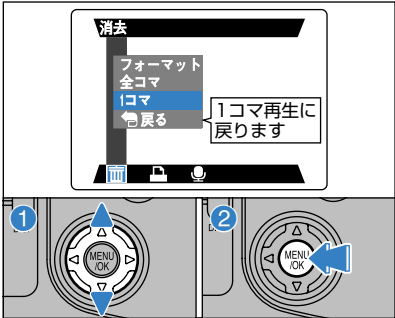
“MENU/OK” ボタンを押して
トリミングします。

トリミング

保存されるサイズを確認し、“MENU/OK” ボタンを押します。トリミングした画像は別ファイルで保存されます。

■画像サイズについて

3M	プリントに適しています。
1M	プリントに適しています。
VGA	プリント時の画質が低下するため、トリミングの文字が黄色になります。

＊ VGA 以下はプリントに適さないため、トリミングの文字が消えトリミング保存できません。

画像を消すには（1コマ消去）

1

❶再生中に“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“◀▶”で“🗑”消去を選びます。

2

❶“▲▼”で“1コマ”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押して決定します。
全コマ、フォーマット（初期化）について詳しくは60ページをご参照ください。

3

❶“◀▶”で消去するコマ（ひとつのファイル）を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押すと表示中のコマ（ひとつのファイル）を消去します。

続けて消去するには❶❷を繰り返します。

誤って画像を消去すると、元に戻せません。ご注意ください。

基本編

ピントについて（距離）

ピント

被写体からカメラまでの距離を撮影距離といいます。
撮影距離が正しく設定されて、シャープな像を確認できることを“ピントが合っている”といいます。

■ピントを合わせる2つの方法－AFとMF

ピントを合わせる機構として、AF（オートフォーカス）、およびMF（マニュアルフォーカス）があります。

AF：AFフレーム内の被写体に自動的にピントを合わせることができます。シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせを実行します。

◆AFセンサーについて◆

本機は、外部AFセンサー（外光パッシブ位相差AF）により、従来機種と比べ高速なAF動作を行います。外部AFセンサーは、マクロ・スーパーマクロ・デジタルズーム・エリア選択AF使用時および「アダプター設定あり」のときは機能しません。外部AFセンサーが汚れていると、ピント合わせが遅くなることがあります（➡84ページ）。

MF：フォーカスリングを回してピントを合わせます。

■ピントが合わない原因と対処方法

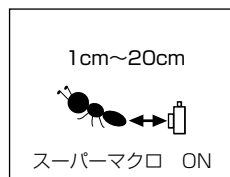
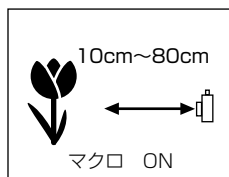
原因	対処方法
被写体がAFフレーム内にいない	AFロック撮影（※1）、MF撮影
AFの苦手な被写体	AFロック撮影（※1）、MF撮影
撮影距離範囲外	マクロのON/OFF（※2）
高速で移動する被写体	MF撮影（撮影距離を固定して撮影する＝置きピン）

※1 AFロック撮影

被写体をとらえる

半押しでピントを合わせる

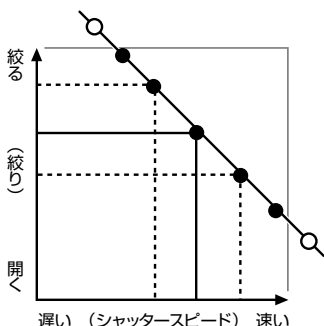
構図を戻して撮影

※2 マクロのON/OFF

◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

- 鏡・車のボディなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 高速で移動する被写体
- AFフレーム付近に主被写体の他に明暗差がはっきりしている被写体が手前や後方にあるとき（コントラストの強い背景の前の人物など）

露出について（絞りとシャッタースピード）

露出

「光がCCDに当たること」、「取り込んだ光の総量」を“露出”といい、それによって画像の明るさが決まります。
露出は絞りとシャッタースピードの組み合わせで決まります。被写体の明るさやISO感度などを考慮して、カメラが自動的に露出を決めることをAE（自動露出）といいます。

左図は、一定露出を保つように、絞りとシャッタースピードを変更していったときの様子を表しています。

- 絞りを一段絞ると、シャッタースピードが一段遅くなります（点が左上に動く）。
- 絞りを一段開くと、シャッタースピードが一段速くなります（点が右下に動く）。
- 絞りまたはシャッタースピードが範囲外になるような組み合わせは選べません（白い点）。
- 撮影モード“P/S/A”では、この直線上の移動を簡単に行うことができます。
- この直線を平行移動して、撮影される画像の明るさを調節することを露出補正といいます。

◆適正な露出が得られないときは◆

AEロック：露出合わせの目標で露出を決め、固定します。次の手順で撮影してください。
AE-Lボタン押し（露出合わせ・固定）➡シャッター半押し（ピント合わせ・固定）➡シャッター全押し（撮影）

露出補正：AEで設定された露出を基準（0）にして、明るめ（＋）、暗め（－）に補正します。オートブラケティングを使うと、“－・0・＋”の3コマを一度に撮影できます。

－

0

＋

シャッタースピード

動きのある被写体を撮影する際に調整すると、「動きの一瞬をとらえる」、「動きを表現する」といった効果が得られます。

被写体が止まったように撮影されます。

被写体の軌跡が撮影されます。

絞り

調整すると、ピントの合う範囲（被写界深度）が変化します。

被写体の前後にもピントが合って撮影されます。

背景がぼやけて撮影されます。

撮影～設定手順

撮影シーンや仕上がりのイメージを考慮しながら、設定を行います。
おおまかな流れは次のようになります。

1 撮影モードを選ぶ（➡32～38ページ）

AUTO　すべての設定をカメラに任せます。
SP　撮影シーンに適した撮影モードです。
P/S/A　絞り・シャッタースピードを変更し、「一瞬をとらえる」「時間の流れをとらえる」「背景をぼかす」といった効果を得ます。
M　すべての設定を調節できます。
動画を撮影します。

2 必要に応じて、撮影機能を設定する（➡39～46ページ）

ストロボ　暗い場所での撮影、逆光時の撮影などで使用します。
マクロ/ スーパーマクロ　近距離撮影で使用します。
AE-L AEロック　露出を固定します。
露出補正　AEの露出を基準（0）として、明るく（＋）または暗く（－）撮影します。
AF/MF切り換え　ピント合わせの自動（AF）/手動（MF）を切り換えます。
連写　連続撮影/オートブラケティング（露出補正）撮影できます。

3 撮影（露出とピントを確認する ➡ 構図調整 ➡ シャッターを全押し）する

メニューを使って、さらに詳細な設定を行えます（➡47～56ページ）

以下にいくつかの設定例を示します。うまく使いこなせば、この他にも多彩な表現ができます。
いろいろと設定を変更して、どのような写真が撮れるか、ぜひお試しください。

このような仕上がりにしたい	設定例
被写体の動き（時間の流れ）を表現したい	モードダイヤルを“S”に合わせ、シャッタースピードを遅くします（手ブレを防ぐため三脚を使用します）。
動いている被写体が、止まっているように表現したい	モードダイヤルを“S”に合わせ、シャッタースピードを速くします。
背景をぼかしてメインの被写体を強調したい	モードダイヤルを“A”に合わせ、絞りを開きます。
ピントの合う範囲を広くしたい	モードダイヤルを“A”に合わせ、絞りを絞ります。
光源によって、画像が赤みがかったり、緑がかったりするのを防ぎたい	撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定を変更します。
シャッターチャンスを逃したくない	AUTO撮影します（基本編参照）。
被写体がアンダーまたはオーバー気味に撮影されるのを防ぎ、素材感や質感をよりはっきりと鮮やかに出したい	露出補正します。 背景が白っぽいとき：＋、背景が黒っぽいとき：－
複数の画像を合成し、アーティスティックな表現がしたい	多重露光します。多重露光では、撮影回数に応じてマイナスに露出補正するのが一般的です。 2回：－1.0EV、3回：－1.5EV、4回：－2.0EV

■モード別使用可能機能一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	SP 人物	SP 風景	SP スポーツ	SP 夜景	SP モノクロ	P	S	A	M	
ストロボ	オート	○	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×
	赤目軽減	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×
	強制発光	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×
	スローシンクロ	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	×
	赤目軽減＋スロー	×	×	×	×	○	×	○	×	○	×	×
マクロ/スーパーマクロ*		○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×
AE-L AEロック		○	○					○	○	○	×	×
露出補正		×	×					○	○	○	×	×
AF/MF切り換え		○	○					○	○	○	○	×
連写切り換え*	1コマ（OFF）	○	○					○	○	○	○	×
	連写	○	○					○	○	○	○	×
	オートブラケティング	×	×					○	○	○	○	×
	サイクル	○	○					○	○	○	○	×
	MEGA	○	×					×	×	×	×	×

＊スーパーマクロ、連写では、ストロボは使用できません。

■モード別使用可能メニュー一覧

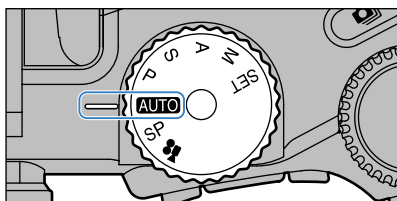
		工場出荷設定	AUTO	SP	P	S	A	M	
メニュー	セルフタイマー	OFF	○	○	○	○	○	○	×
	ISO 感度	200	×	×	○	○	○	○	×
	WB ホワイトバランス	AUTO	×	×	○	○	○	○	×
	測光	マルチ	×	×	○	○	○	○	×
	オートブラケティング	±1/3EV	×	×	○	○	○	○	×
	シャープネス	ノーマル	×	×	○	○	○	○	×
	多重露光	OFF	×	×	○	○	○	○	×
	ストロボ（光量補正）	0	×	×	○	○	○	○	×
	外部ストロボ	OFF	×	×	○	○	○	○	×
	ボイスメモ	OFF	○	○	×	×	×	×	×

絞り・シャッタースピードの調整だけでは、適正露出が得られないときは…

明るいとき
- ISO 感度を下げる
- NDフィルターを使用する（別売）

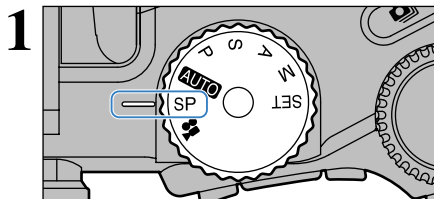
暗いとき
- ISO 感度を上げる
- ストロボの使用/光量補正
- 三脚（別売）

AUTO オート/SP シーンポジション

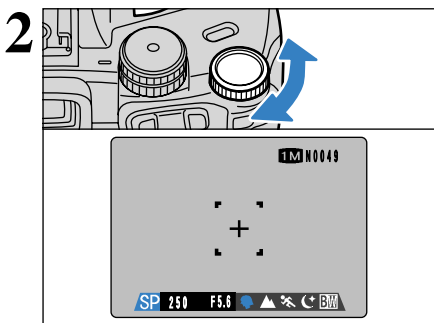
AUTO オート

モードダイヤルを“AUTO”に合わせます。

最も簡単に撮影できる撮影用途の広い撮影モードです。

SP シーンポジション

1

モードダイヤルを“SP”に合わせます。

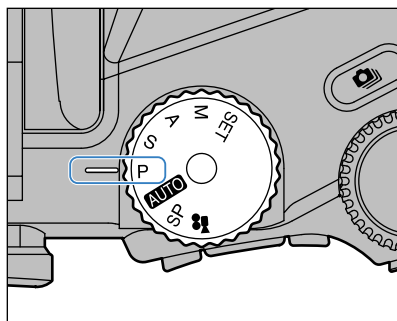
撮影シーンに適した撮影モードです。

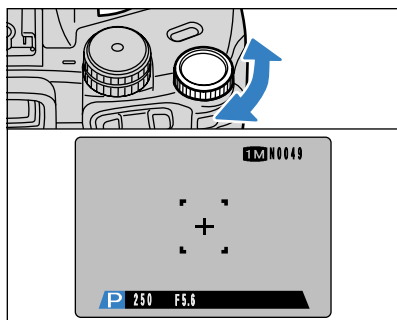
2

“SP”シーンポジションモードでは、人物・風景・スポーツ・夜景・BWの5種類からシーンを選べます。コマンドダイヤルを回してセットします。

! “AUTO・SP”では感度はISO 200に設定されます。

	説　明	使用可能ストロボ
人物	人物撮影に適したモードです。肌の色がきれいに見え、ソフトな感じに仕上がります。	A⚡・👁・⚡・S⚡
風景	昼間の風景撮影に適したモードです。建物や山など風景をくっきりと仕上げます。	ストロボは使用できません。
スポーツ	動体撮影に適したモードです。高速側のシャッター優先の撮影が行われます。	A⚡・⚡
夜景	夕景や夜景の撮影に適したモードです。最長約3秒のスローシャッター優先の撮影が行われます。	👁SLOW・S⚡
BW モノクロ	撮影シーンを限定せず、モノクロで撮影したい場合に使用します。	A⚡・👁・⚡・S⚡

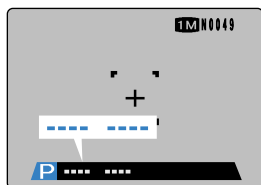
BWモノクロを除きマクロの設定はできません。

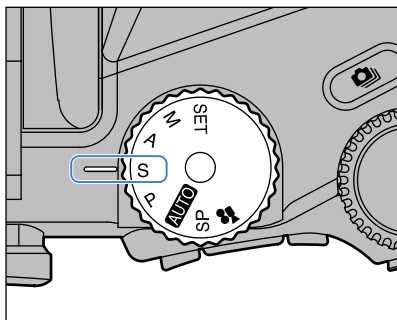
P プログラムオート

モードダイヤルを“P”に合わせます。

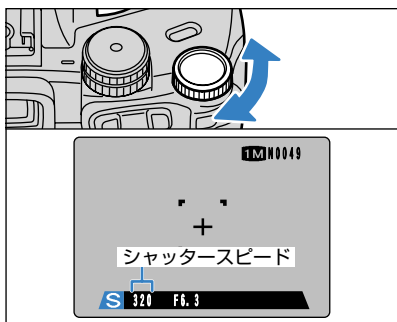
シャッタースピード/絞り以外の各種設定ができるオートモードです。比較的簡単にシャッター優先・絞り優先のように撮影できます（プログラムシフト）。

プログラムシフト

コマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピード・絞り値の組み合わせを切り換えることができます。プログラムシフト中は、シャッタースピード・絞り値が黄色で表示されます。

❗ プログラムシフトは次のとき自動的に解除されます。
- 撮影モードを切り換えたとき
- ストロボをポップアップしたとき
- 撮影メニュー“ ”外部ストロボをONに設定したとき
- 再生モードに切り換えたとき
- 電源が切れたとき

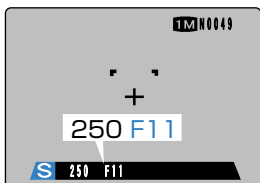
◆シャッタースピード・絞り値表示について◆

被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、画面内の“シャッタースピード”および“絞り値”が「 ---- 」で表示されます。

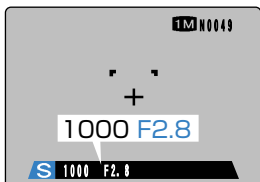
撮影モード　S シャッター優先オート

モードダイヤルを“S”に合わせます。

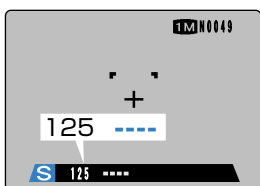
シャッタースピードを設定できるオートモードです。動きの一瞬をとらえる(高速)、動きを表現する(低速)などの撮影ができます。

シャッタースピード設定

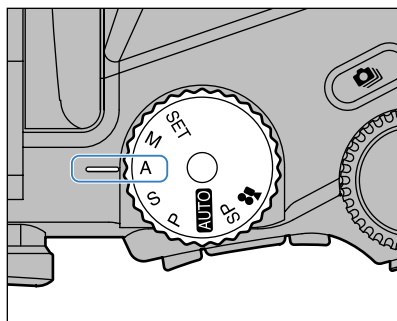
コマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを設定できます。

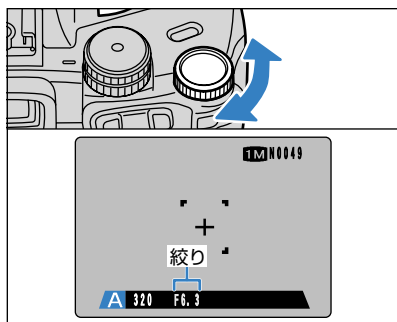
●シャッタースピードの設定
　3秒〜1/1000秒　1/3EVステップ

◆シャッタースピード・絞り値表示について◆

極端な露出オーバーの撮影シーンでは、絞り値(F11)が「赤色」で表示されます。そのときは、より高速側のシャッタースピード(〜1/1000秒)に設定してください。

露出アンダー

極端な露出アンダーの撮影シーンでは、絞り値(F2.8)が「赤色」で表示されます。そのときは、より低速側のシャッタースピード(〜3秒)に設定してください。

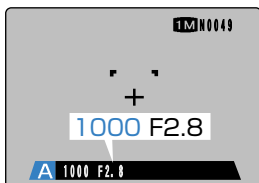
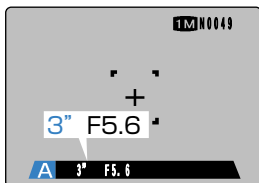
測 光 不 可

被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、シャッタースピードが「 ---- 」と表示されます。そのときはシャッターボタンを半押しすると再測光されて、値が表示されます。

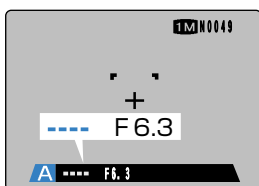
撮影モード A 絞り優先オート

モードダイヤルを“A”に合わせます。

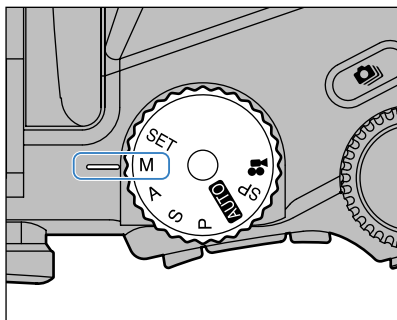
絞り値を設定できるオートモードです。
背景をぼかす（開放）、遠くまでピントを合わせる（絞る）撮影ができます。

絞り設定

コマンドダイヤルを回すと、絞り値を設定できます。

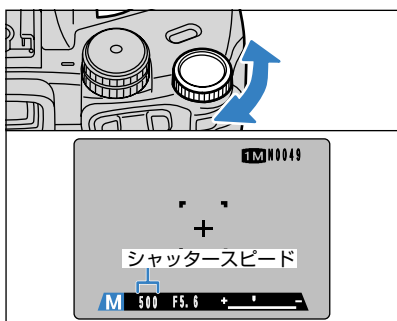
●絞り値の設定
F2.8～F11　1/3EVステップ

◆シャッタースピード・絞り値表示について◆

極端な露出オーバーの撮影シーンでは、シャッタースピード（1/1000秒）が「赤色」で表示されます。そのときは、より大きい数値の絞り値（～F11）に設定してください。

極端な露出アンダーの撮影シーンでは、シャッタースピード（3秒）が「赤色」で表示されます。そのときは、より小さい数値の絞り値（～F2.8）に設定してください。

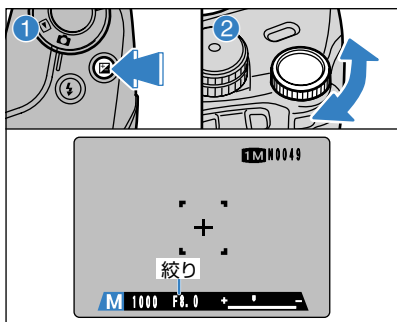
測 光 不 可

被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、絞り値が「 ---- 」と表示されます。そのときはシャッターボタンを半押しすると再測光されて、値が表示されます。

M マニュアル

モードダイヤルを "M" に合わせます。
シャッタースピードと絞り値を自由に設定できる撮影モードです。

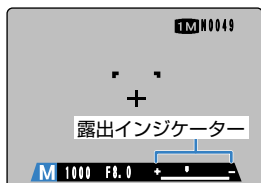
- シャッタースピードの設定
  15秒〜1/10000秒　1/3EVステップ
- 絞り値の設定
  F2.8〜F11　1/3EVステップ

EVについては87ページをご参照ください。

シャッタースピード設定

コマンドダイヤルを回してシャッタースピードを設定します。

- 長時間露光したときは、画像に点状のノイズが発生することがあります。
- 1/2000秒より高速なシャッタースピードを設定して撮影すると、スミア（白いすじ）が写ることがあります（➡87ページ）。
- 1/1000秒より高速なシャッタースピードのときは、ストロボが発光しても暗くなることがあります。

絞り値設定

❶ "☑" 露出補正ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して絞り値を設定します。

◆露出インジケーターについて◆

画面の "露出インジケーター" を目安に露出を決定します。
被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、目印が＋側になると露出オーバー（＋が黄色表示）、－側になると露出アンダー（－が黄色表示）です。

ムービー（動画）

1

モードダイヤルを“🎥”に合わせます。
“🎥”ムービーは音声付きの動画が撮れるモードです。

●撮影形式：Motion JPEG 形式（➡87ページ）
VGA（640×480ピクセル）、
QVGA（320×240ピクセル）切り換え式
30フレーム/秒
音声付き

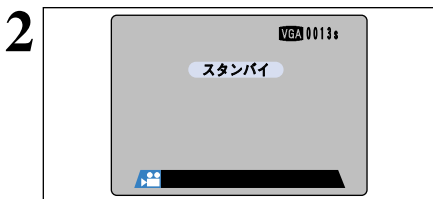
! ピクセル（画像サイズ）の変更は67ページをご参照ください。
! 音声が同時に記録されるので、指などでマイク（➡7ページ）をふさがないようご注意ください。
! メディアの空き容量によっては、一回の撮影時間が短くなることがあります。
! ムービー（動画）はメディアに記録しながら撮影するため、突然電源が切れる（電池カバー・スロットカバーを開ける、ACパワーアダプターの抜きさし）と正常に保存処理できません。

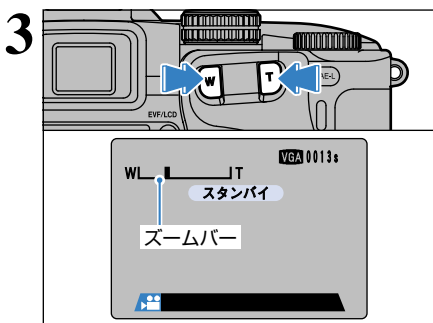
本機以外のカメラでは再生できない場合があります。

■メディア標準撮影可能時間

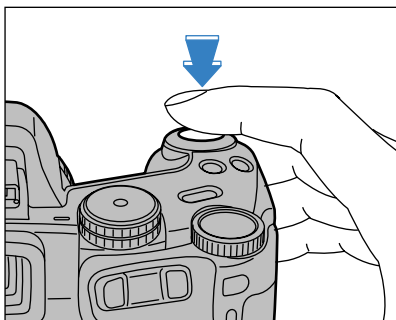
ピクセル	VGA	QVGA
MG-4S（4MB）	約3秒	約6秒
MG-8S（8MB）	約6秒	約13秒
MG-16S（16MB）	約13秒	約27秒
MG-32S（32MB）	約27秒	約55秒
MG-64S（64MB）	約55秒	約110秒
MG-128S（128MB）	約112秒	約222秒
MK-1（340MB）	約307秒	約609秒
MK-2（1GB）	約925秒	約1833秒

＊メディアをカメラでフォーマットした状態の撮影可能時間です。

2

画面に撮影可能時間と“スタンバイ”が表示されます。

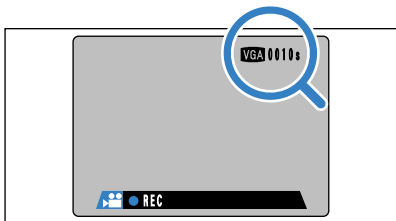
3

撮影を開始する前にズームボタンでズームします。撮影中はズームできませんので、必ず撮影前に行ってください。

●光学ズーム焦点距離（35mmカメラ換算）
約35mm〜約210mm相当
最大ズーム倍率 6倍
●撮影可能距離
広角側：約50cm〜無限遠
望遠側：約90cm〜無限遠

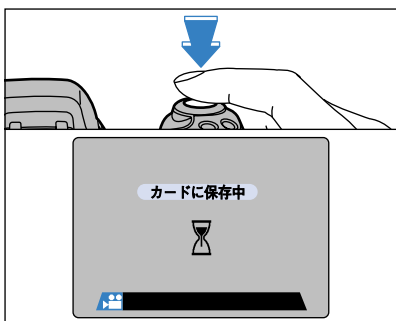
4

シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。

- 撮影前の画面と動画記録中の画面は明るさや色などが異なる場合があります。
- シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

シャッターボタンを全押しすると、ピント、ホワイトバランスは固定されますが、露出はシーンに応じて自動的に変化します。

5

撮影中は、画面右上に残り時間をカウントダウン表示します。

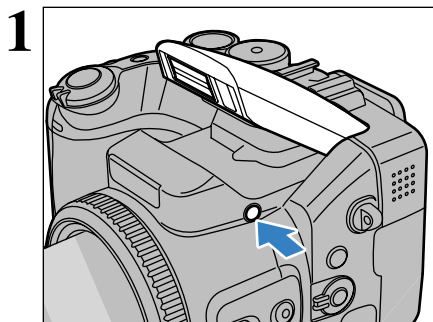
- 動画撮影中に被写体の明るさが変化すると、絞り動作音が記録されることがあります。
- 残り時間がなくなると自動的に撮影が終了し、メディアに記録されます。

6

撮影中にシャッターボタンを押すと撮影を終了し、メディアへ記録します。

- 撮影開始後すぐに終了しても約1秒間だけメディアへ記録されます。

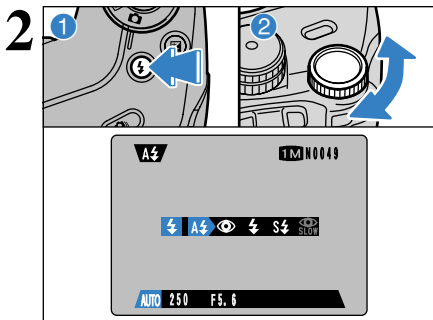
長時間ムービー撮影するときは、充電済みのニッケル水素電池のご使用をおすすめします。

AUTO SP（▲を除く）P S A M

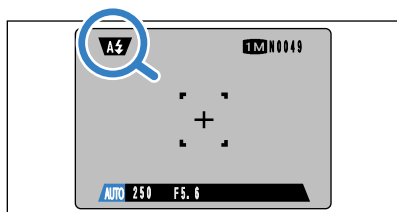
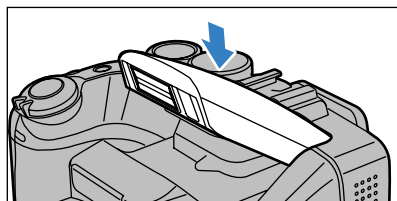
1

ストロボポップアップボタンを押してストロボをセットします。

●ストロボ撮影可能距離（AUTO時）
　広角側：約0.3m〜約5.4m
　望遠側：約0.9m〜約5.0m

❗1/1000秒より高速なシャッタースピードのときは、ストロボが発光しても暗くなることがあります。
❗ストロボをポップアップしたときや、ストロボ撮影をした場合、充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときインジケーターランプが橙色の点滅をします。

2

❶"⚡"ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して、ストロボの設定を選びます。

❗外部ストロボの使用については54ページをご参照ください。

ストロボの設定は撮影モードにより制限されます（➡31ページ）。

ストロボ使用中は画面に"A⚡・👁・⚡・S⚡・SLOW"が表示されます。

◆ストロボ発光禁止◆

ストロボを閉めると発光禁止になります。
室内照明を利用しての撮影、ガラス越しの撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。
この場合、オートホワイトバランス（➡87ページ）が働き、周囲光の雰囲気を残しつつ自然な色に撮影できます。

❗暗い場所でストロボ発光禁止で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
❗手ブレ警告については22、83ページをご参照ください。

次ページにつづく

オートストロボ

一般的な撮影に使用します。撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。

赤目軽減ストロボ

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。
撮影前にストロボがプレ発光し、次に撮影のためのストロボが発光します。

❗"AUTO・SP"の撮影モードでは撮影状況に応じて自動的に発光します。

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするために、赤目軽減ストロボを積極的にご利用ください。赤目軽減ストロボを使用するとともに、

- 撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
- なるべく近づいて撮影する

などするとより効果的です。

強制発光ストロボ

窓際や木陰などの逆光撮影、蛍光灯などの照明の下で適正な色に撮りたいときに使用します。
明るいところでもストロボ撮影が行われます。

スローシンクロ

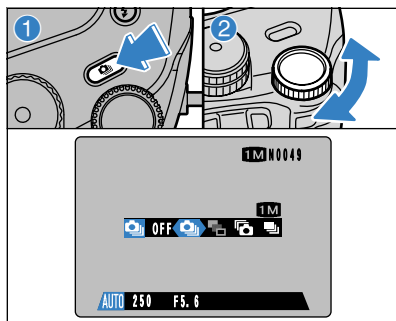
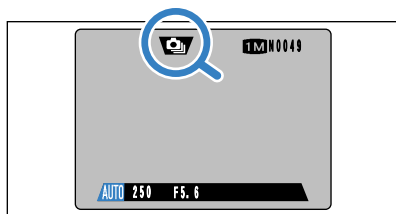
スローシャッターでストロボ発光します。夜景と人物をきれいに撮影できます。

赤目軽減＋スローシンクロ

赤目軽減のスローシンクロ撮影です。

❗明るい撮影シーンでは露出オーバーになることがあります。
❗スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

背景の夜景をより明るく撮りたい場合は、"SP"モードの"☾"（夜景）の使用をおすすめします（➡32ページ）。

連写

❶"連写"ボタンを押しながら❷コマンドダイヤルを回して、使用する連写モードを選びます。"連写"ボタンから指をはなすと決定されます。

連写モードを設定（OFF以外）すると画面に選んだモードが表示されます。

- ：連写
- ：オートブラケティング
- ：サイクル連写
- ：MEGA連写

◆連写モードの注意◆

- シャッターボタンを押し続けている間撮影されます。ただしオートブラケティングは一度シャッターを切ると自動的に3コマ撮影されます。
- メディアの容量が不足すると、記録可能な枚数分撮影されます。ただしオートブラケティングは、メディアに3コマ分の空き容量がないときは撮影できません。
- ピントは1コマ目を撮影したときに決定され、途中で変えられません。
- 露出は1コマ目を撮影したときに決定されますが、「MEGA連写」ではシーンに応じて自動的に変わります。
- シャッタースピードにより連写速度は変わります。
- 連写速度はピクセルとクオリティー設定によって変わることはありません。
- ストロボは発光禁止になり使用できません。
- 撮影後、必ず撮影結果が表示されます。画像を選択して記録したいときは、SET-UPの撮影画像表示を"プレビュー"にします（➡68ページ）。

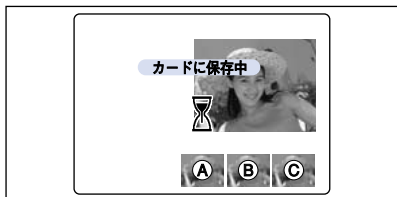
次ページにつづく

連写

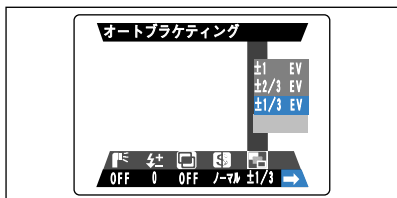
AUTO SP P S A M

最短約0.2秒間隔で最大5コマ連写できます。撮影すると撮影結果（左から撮影した順序）が表示され、自動的に保存されます。

オートブラケティング

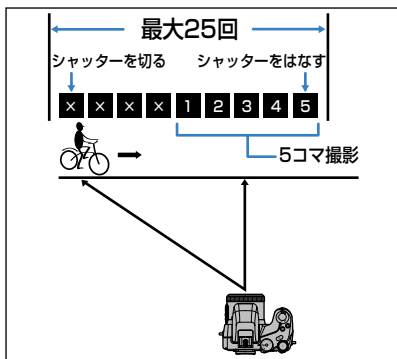
P S A M

自動的に設定値きざみでⒶ適正・Ⓑオーバー・Ⓒアンダーの露出で3コマ連続して撮影されます。設定値（露出幅）は撮影メニューで変更できます。

●オートブラケティング設定値（3種類）
±1/3EV・±2/3EV・±1EV

! アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を越えるときは、設定値きざみで撮影されません。
! “AUTO・SP” の撮影モードでは使用できません。

設定値（露出幅）の変更

“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示し、“オートブラケティング” （➡52ページ）の項目で設定を変更します。

サイクル連写

AUTO SP P S A M

最大25回（最短約0.2秒間隔）シャッターを切ったうちの最後の5コマを記録します。25回に到達する前にシャッターボタンから指をはなしたときは、シャッターボタンから指をはなした直前の5コマが記録されます。
メディアの容量が不足しているときは、シャッターボタンから指をはなした直前の、記録可能な枚数分撮影されます。

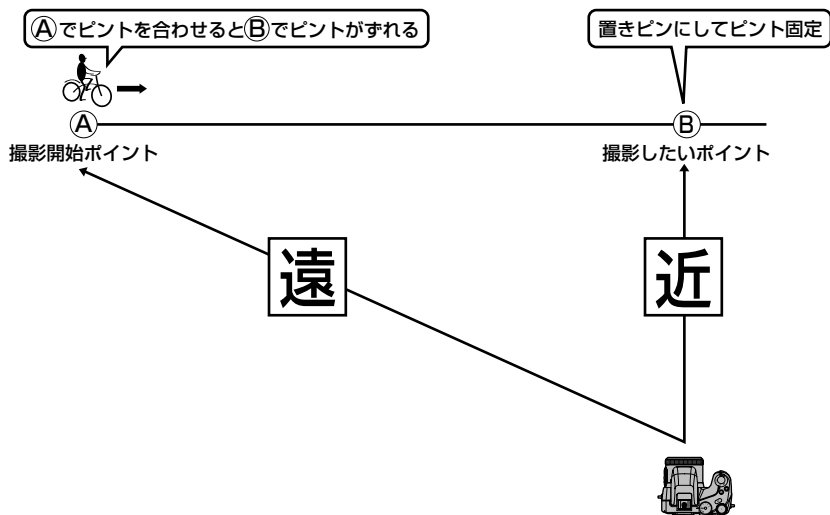
MEGA連写

最大40コマ連写できます（最短約0.6秒間隔）。MEGA連写では自動的にピクセル設定が“1M”（1280×960）になります。クオリティー設定はNORMAL、FINEが選べます（➡67ページ）。

- MEGA連写を解除してもピクセル設定は“1M”のままです。
- “SP・P・S・A・M”の撮影モードでは使用できません。
- マイクロドライブをご使用のときは、その特性上撮影間隔が遅くなる場合があります。

◆移動している被写体にピントを合わせるには◆

撮影開始ポイントⒶでシャッターボタンを半押ししてピントを合わせると、撮影したいポイントⒷで距離が変わり、ピントの合っていない画像になることがあります。
そのときは、AFロックやマニュアルフォーカスを使用して、あらかじめ撮影したいポイントⒷにピントを合わせ、ピントがずれないように固定して撮影します（置きピン）。
また置きピンは、動きが速くピントを合わせにくい被写体の撮影でも有効です。

露出補正

被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な明るさ（露出）が得られないときに使用します。

- "AUTO・SP・M"の撮影モードでは使用できません。
- 次のような状態では、無効になります。
  "⚡"（強制発光）または"👁"（赤目軽減）で撮影シーンが暗いとき

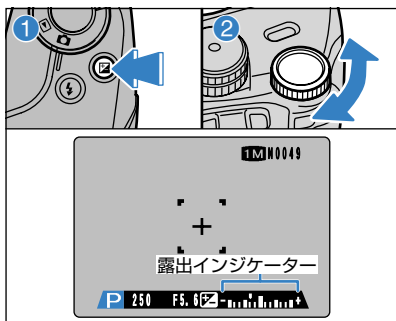
◆次のような被写体のとき効果があります◆

＋（プラス）補正の目安

- 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の複写：＋4目盛（＋1.3EV）
- 逆光の人物撮影：＋2～＋4目盛（＋0.7EV～＋1.3EV）
- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合：＋3目盛（＋1EV）
- 画面内を空の部分が大きく占める場合：＋3目盛（＋1EV）

－（マイナス）補正の目安

- スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合：－2目盛（－0.7EV）
- 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の複写：－2目盛（－0.7EV）
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合：－2目盛（－0.7EV）

EVについては87ページをご参照ください。

❶"±"ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して設定します。補正した側の"－"または"＋"が「黄色」になります。設定中は"±"が「黄色」で表示され、設定後は"±"が「青色」になります。

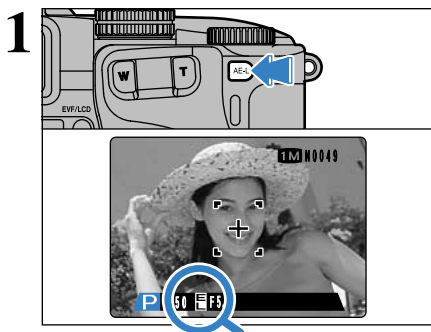
●補正範囲：－2EV～＋2EV、1/3EVステップ

モード切り換え・電源OFFでも保持されます（"±"マーク点灯）。必要のないときは設定値を"0"にしてください。

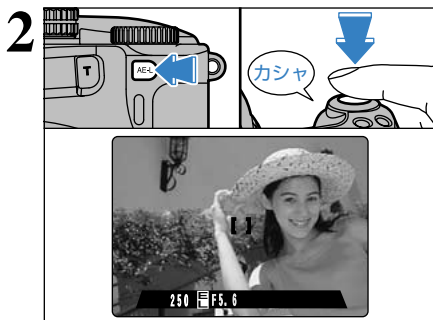
AE-L AEロック/マクロ(近距離)

AE-L AEロック

AUTO SP P S A

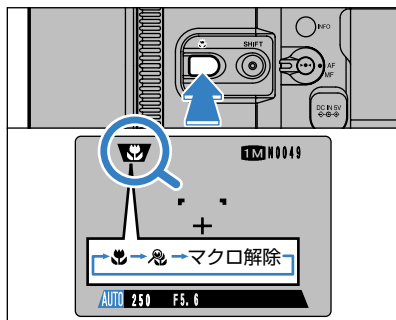
1

特定の被写体に露出を固定して撮影したいときに使用します。
被写体を画面中央に大きくとらえ、"AE-L"ボタンを押します。画面に"▤"マークが表示され"AE-L"ボタンを押している間、露出が固定されます。

❗"M"の撮影モードおよびMEGA連写時は使用できません。

2

"AE-L"ボタンを押したままシャッターボタンを半押ししピントを合わせます。構図をし直して撮影します。

❗シャッターボタンを半押しすれば、"AE-L"ボタンを離しても露出は固定されています。
❗AEロック時のシャッターボタン半押しは、ピント合わせのみ可能です。

マクロ(近距離)

AUTO SP (BWのみ) P S A M

マクロを設定すると近距離撮影ができます。
"🌷"ボタンを押すたびにマクロの設定が変わります。

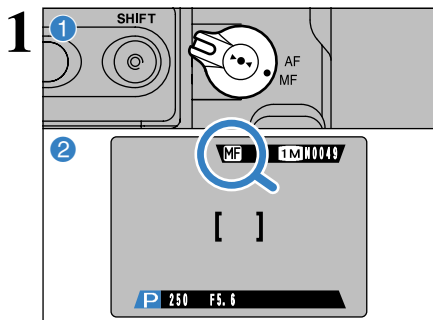
❗マクロ撮影は、次のとき自動的に解除されます。
- 撮影モードを"SP(BWを除く)・🎥・SET"に切り換えたとき
- 再生モードに切り換えたとき
- 電源が切れたとき

❗ストロボが明るすぎる場合は、ストロボの光量補正を行ってください(➡54ページ)
❗手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

	撮影可能距離	ストロボ撮影可能距離	光学ズーム焦点距離(35mmカメラ換算)
マクロ	約10cm〜約80cm	約30cm〜約80cm	約35mm〜約80mm相当 最大ズーム倍率　約2.3倍
スーパーマクロ	約1cm〜約20cm	ストロボは使用できません。	光学ズームはできません。

マニュアルフォーカス

AUTO SP P S A M

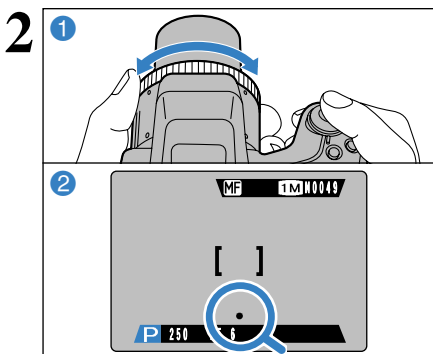
1

AFでピントが合いにくい場合や、ピントを固定して撮影したいときに使用します。

❶フォーカスモード切り換えレバーを“MF”に合わせます。
❷画面に“MF”が表示されます。

“🎥”の撮影モードでは使用できません。

◆マニュアルフォーカスを使いこなすには◆

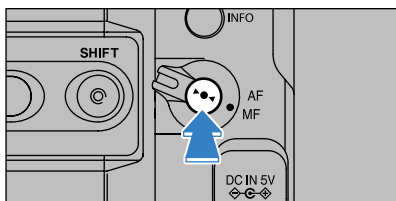
カメラが動いてしまうとピントがずれてしまうため、三脚の使用をおすすめします。

2

❶フォーカスリングを回してAFフレーム内の被写体にピントを合わせます。
❷画面にフォーカスインジケーターが表示されるので、“●”が表示されるように調節します。

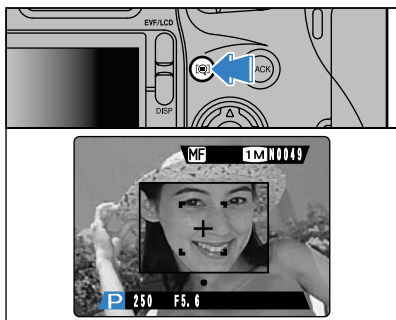
■フォーカスインジケーターについて

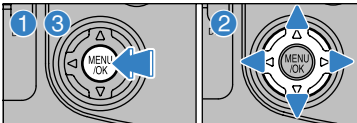
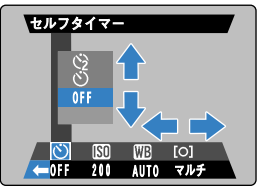
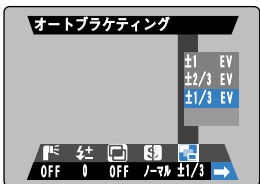
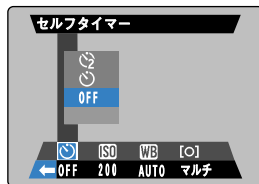
ピント合わせをある程度行う（合焦位置に近づく）とマークが表示されるので、マークに従ってピントを合わせます。

ピントが合っていないのに●（合焦）マークが点灯したときは、ワンプッシュAF機能をおためしください。

●	ピントが合っています。
◀	ピントが近距離です。フォーカスリングを時計回りに回します。
▶	ピントが遠距離です。フォーカスリングを反時計回りに回します。

ワンプッシュAF機能

素早くピントを合わせるときに使用します。
“▶●◀”ボタンを押すとオートフォーカスでピントが合います。

ワンプッシュAF時はフォーカスインジケーターは表示されません。

フォーカス確認機能

ピントが確認しにくい場合に使用します。
“[◎]”ボタンを押すと画面中央部が拡大表示され、そのままピント合わせが可能です。撮影するかもう一度“[◎]”ボタンを押すと通常表示に戻ります。

フォーカス確認機能は次のとき機能しません。

- ピクセル設定が“VGA”のとき
- ピクセル設定が“1M”でデジタルズーム（テレ端）使用のとき
- エリア選択AF設定時

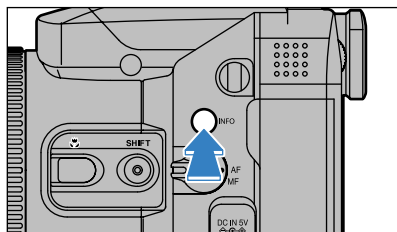
撮影メニューの操作

1

❶"MENU/OK" ボタンを押してメニューを表示します。
❷"◀▶" でメニューを選びます。"▲▼" で設定を変更します。
❸"MENU/OK" ボタンを押して決定します。

❗撮影モード "🎥" ではメニューは設定できません。

2

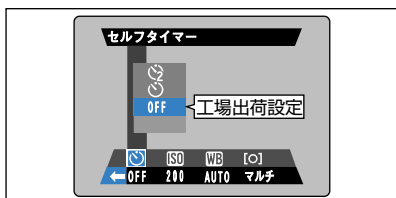
メニュー端の "⬅➡" 側へ、"◀▶" を押すとメニューのページが切り換わります。

◆撮影インフォメーション◆

撮影中に現在の設定値が分からなくなった場合、"INFO" ボタンを押している間のみ確認できます。

❗"AUTO ・SP・🎥" ではインフォメーション表示されません。
❗確認のみで設定の変更はできません。

セルフタイマー

AUTO SP P S A M

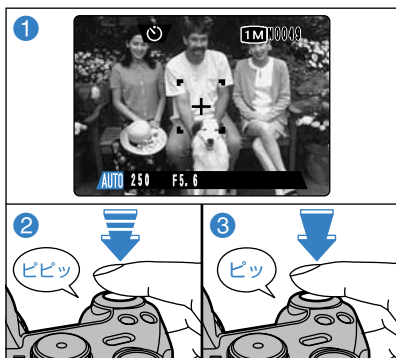
1

セルフタイマーを設定すると、画面にセルフタイマーマークが表示されます。

⏲：10秒後撮影
⏲2：2秒後撮影

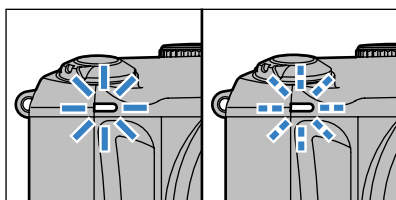
セルフタイマーは、次のときに自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影が終わったとき
- モードダイヤルを切り換えたとき
- 再生モードに切り換えたとき
- 電源が切れたとき

◆2秒後撮影について◆

三脚を使用してもシャッター操作でカメラがブレてしまう場合に便利です。

2

❶AFフレームを被写体に合わせます。
❷シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
❸半押しのまま、さらにシャッターボタンを押し込むと（全押し）、セルフタイマーが開始されます。

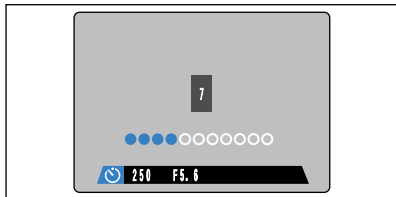
AF/AEロック撮影も可能です（➡23ページ）。
レンズの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケになったり、適正な明るさ（露出）にならないことがあります。

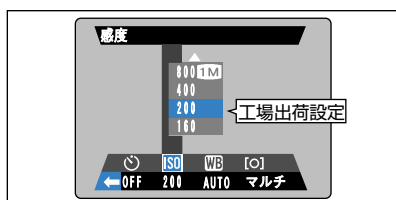
3

セルフタイマーランプが点灯したのち点滅に変わり、撮影されます。

スタートしたセルフタイマー撮影は、“BACK”ボタンを押すと解除できます。

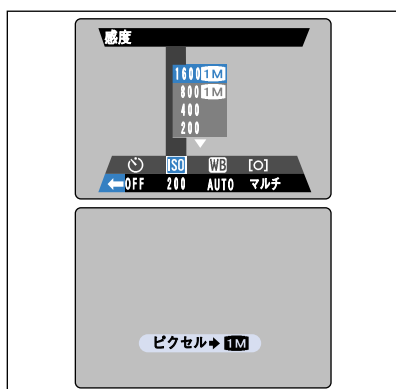
■セルフタイマーランプ表示

⏲2	2秒間点滅
⏲	5秒間点灯→5秒間点滅

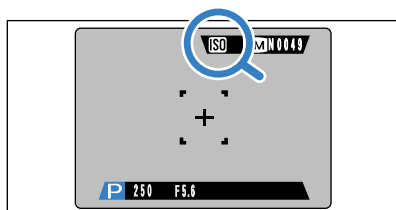
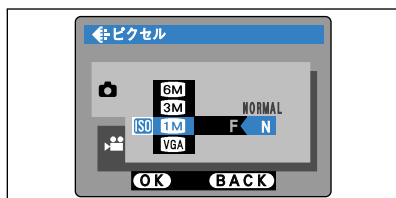
4

撮影されるまでの間、画面にカウントダウン表示されます。
セルフタイマーは撮影ごとに自動的に解除されます。

ISO 感度

室内の撮影などで、ストロボを使わずに明るく撮影したい場合や、高速シャッターを切りたいとき（手ブレ防止など）に使用します。

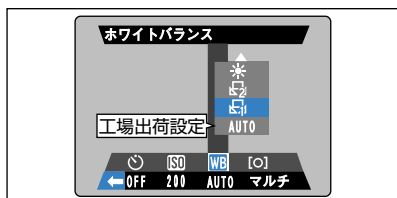
●設定値：160・200・400・800・1600

高感度撮影はモードダイヤルを“AUTO・SP”または“SET”に合わせると解除され、感度はISO 200になります。ただし、ピクセル設定は“1M”、NORMALのままです。

高感度撮影（800・1600）

高感度（800・1600）に設定すると、自動的にピクセル設定が“1M”、NORMALに設定されます。

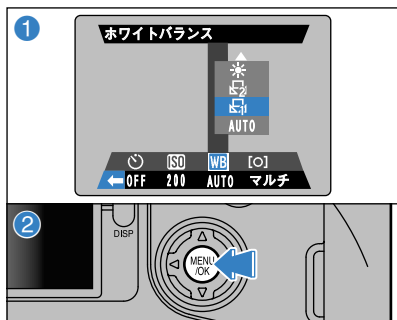
- 高感度撮影は、次のとき自動的に解除されます。
  - 再生モードに切り換えたとき
  - 電源が切れたとき
- 高感度撮影ではデジタルズームできません。
- 感度の設定値が大きくなるほど暗いところでの撮影に適していますが、画像のノイズが増えます。状況に応じて使い分けてください。

高感度撮影のときは、画面に“ISO”が表示されます。

“SHIFT”ボタンを押しながら“MENU/OK”ボタンを押すとメニューが表示されますが、ピクセル設定は“1M”、NORMALから変更できません。

WB ホワイトバランス

P S A M

撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスにならない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。ホワイトバランスについては87ページをご参照ください。

AUTO：自動調整
　　　（光源の雰囲気を残した撮影）
：カスタムホワイトバランス 1
：カスタムホワイトバランス 2
：晴れた屋外での撮影
：日陰での撮影
：昼光色蛍光灯下での撮影
：昼白色蛍光灯下での撮影
：白色蛍光灯下での撮影
：電球、白熱灯下での撮影

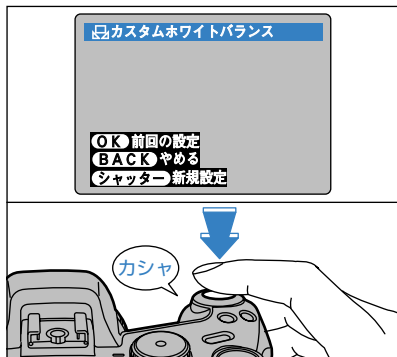
＊ストロボ発光時は、ホワイトバランス設定（カスタムホワイトバランスを除く）は無効になりますので、意図した撮影の場合、ストロボを押し下げて発光禁止（➡39ページ）にしてください。

1

カスタムホワイトバランスの設定

撮影時の環境・照明光に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。特殊な効果を出したいときにも使用できます。

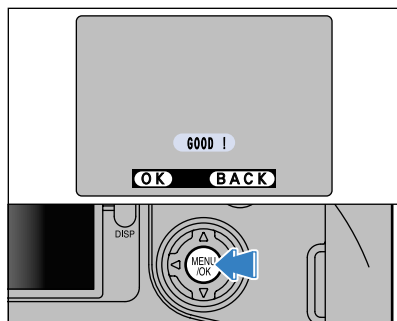
❶“ ”または“ ”のカスタムホワイトバランスを選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

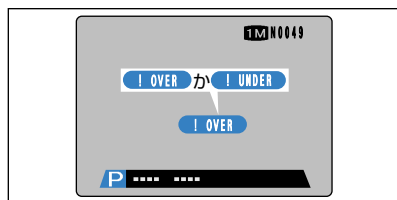
◆使用例◆
白い紙の代わりに色紙を使用すると、撮影画像のホワイトバランスを意図的に変えることができます。

2

設定したい光源下で、白い紙などを画面いっぱいに表示し、シャッターボタンを押すと測定されます。

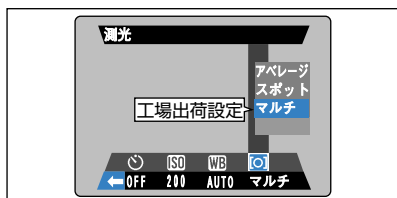
❗画面にホワイトバランスは反映されません。

前回設定したホワイトバランスを使用するには、シャッターボタンを押さずに“MENU/OK”ボタンを押してください。

3

適正な露出で測定されると、“GOOD !”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

! 設定したカスタムホワイトバランスは、再設定するまで保持されます。
! 撮影後、画像の色味(ホワイトバランス)を確認することをおすすめします。
- SET-UP画面で撮影画像表示(➡68ページ)をプレビューにします。
- 電源レバーを“▶”にします(➡16ページ)。

“! OVER”“! UNDER”が表示された場合は、適正な露出でホワイトバランスが測定されていません。もう一度設定し直してください。

[⊙] 測光

P S A M

被写体と背景の明るさが大きく異なる撮影シーンで、マルチで思いどおり測光されない場合に使用します。

アベレージ：画面全体を平均して測光します。
スポット　：画面中央部の露出が最適になるように測光します。
マルチ　　：自動で場面を判別し、露出が最適になるように測光します。

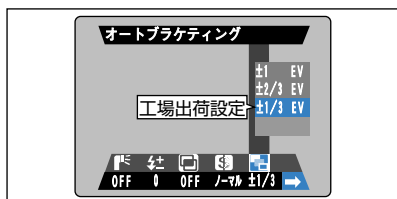
❗"AUTO・SP・🎥"の撮影モードではマルチに固定されています。

◆次のような被写体のとき効果があります◆

- アベレージ
  構図や被写体により露出が変化しにくい特長があります。白や黒などの服を着た人物や、風景の撮影などに有効です。
- スポット
  明暗差の大きい被写体で、ねらったものに正確に露出を合わせたいときに有効です。
- マルチ
  シーン自動認識により被写体を分析し、幅広い条件で適正な露出が得られます。通常はマルチの使用をおすすめします。

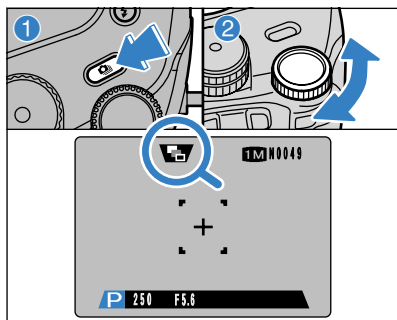
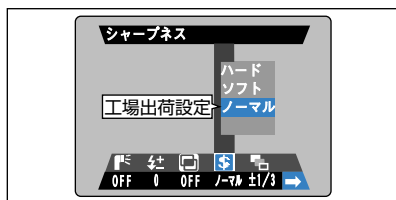
オートブラケティング

P S A M

1

同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。
自動的に設定値きざみで適正・オーバー・アンダーの露出で3コマ連続して撮影します。

●設定値：3種類
（±1/3EV・±2/3EV・±1EV）
EVについては87ページをご参照ください。

❗アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を越えるときは、設定値きざみで撮影されません。
❗ストロボ撮影はできません。
❗必ず3コマの画像が撮影されます。ただし、メディアに3コマ分の空き容量がない場合は撮影できません。

2

オートブラケティングを設定後、❶"📷"ボタンを押しながら❷コマンドダイヤルを回して"⧉"を選びます。

シャープネス

輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調節するときに使用します。

ハード　：輪郭を強調します。
建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。

ソフト　：輪郭をソフトにします。
人物などソフトにしたい撮影に最適です。

ノーマル：通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。

多重露光

撮影した画像が重なって表現される撮影方法です。通常得られない画像を撮影できます。

- 撮影した画像が露出オーバーになる場合は、露出補正でマイナス補正することをおすすめします（➡44ページ）。
- 多重露光では光学ズームのみになり、デジタルズーム（➡24ページ）は機能しません。
- 電源OFFで自動的に解除されます。

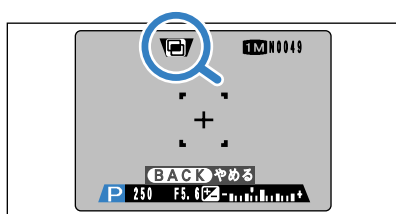
●多重露光設定時は連写、オートブラケティングは無効になります。
●撮影途中で撮影メニューやピクセル/クオリティーの設定を変更できません。
●多重露光の回数に制限はありません。

1

撮影するとプレビュー画面が表示されます。

●さらに多重露光する：“▶”を押します。
●記録する：“MENU/OK”ボタンを押します。
●ひとつ前に戻る：“◀”を押します。
●記録しないでやめる：“BACK”ボタンを押します。

- 撮影画像表示の設定にかかわらず必ずプレビューされます。ただしプレビューズーム機能は使用できません（➡68ページ）。
- 撮影モードを変更すると記録されずに終了します。

2

2回目以降の撮影では、画面の“▢”が黄色で表示されます。

応用編 撮影

ストロボ（光量補正）

光量補正は撮影目的や撮影条件に合わせて内蔵ストロボの発光量のみを変えられます。

●補正範囲：±2段階
（−0.6EV～+0.6EV、約0.3EVステップ）
EVについては87ページをご参照ください。

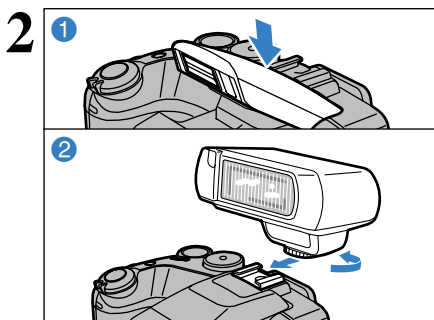
- 被写体条件および撮影距離等によっては、光量補正の効果が得られない場合があります。
- 1/1000秒より高速なシャッタースピードを設定したときは、暗く撮影されることがあります。

外部ストロボ

1

外部ストロボを使用するときに“ON”にします。同調シャッタースピードは1/1000秒までです。

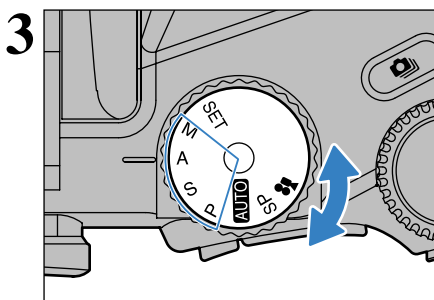
- 1/1000秒より高速なシャッタースピードを設定したときは、暗く撮影されることがあります。
- ホワイトバランス（➡50ページ）をAUTO、またはカスタムホワイトバランス（➡55ページ）に設定します。

2

❶内蔵ストロボを閉めます。
❷外部ストロボをカメラのホットシューに取り付け、固定ねじを締めます。

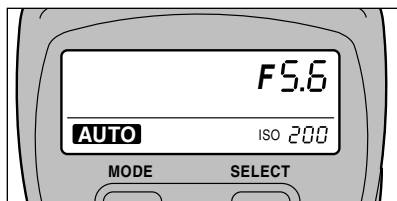
- 内蔵/外部ストロボは同時に使用できません。

◆使用可能なストロボ◆

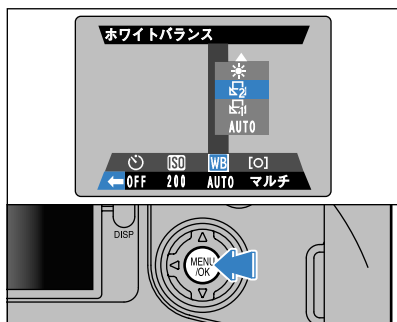
次の3条件を同時に満たすもの
- ●絞り値設定が可能
- ●外部調光が可能
- ●感度設定が可能

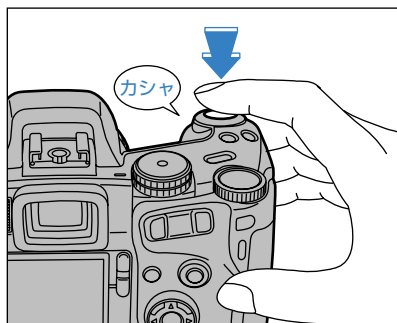
3

“P・S・A”（➡33、34、35ページ）か“M”（➡36ページ）に設定できますが、“A”か“M”での使用をおすすめします。

- 連写（➡41ページ）・オートブラケティング（➡42ページ）を設定時はストロボ撮影できません。

4

外部ストロボの設定

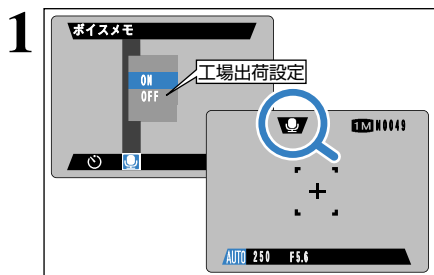
外部ストロボの設定は、ストロボの説明書を参照して次の項目を設定してください。

- 外部調光モードに設定します（TTLモードは使用できません）。
- カメラの絞り値と、設定を合わせます。“P・S”の撮影モードでは、カメラが測定した絞り値に合わせてください。
- カメラの感度（➡49ページ）と、設定を合わせます。

ホワイトバランスが合わない場合

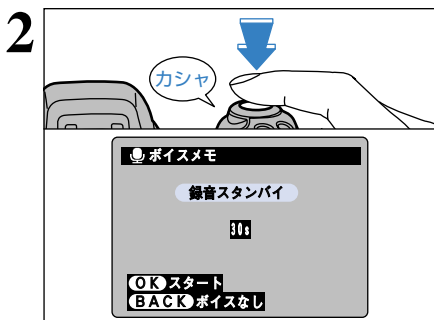
外部ストロボに合わせてホワイトバランスを調節します。
撮影メニューの“WB”（➡50ページ）で“1・2”カスタムホワイトバランスを選びます。
“MENU/OK”ボタンを押します。

白い紙などを画面いっぱいに表示します。
シャッターボタンを押すとストロボが発光し設定されます。

! 撮影後、画像の色味（ホワイトバランス）を確認することをおすすめします。
- SET-UP画面で撮影画像表示（➡68ページ）を“プレビュー”にします。
- 電源レバーを“▶”にします（➡16ページ）。

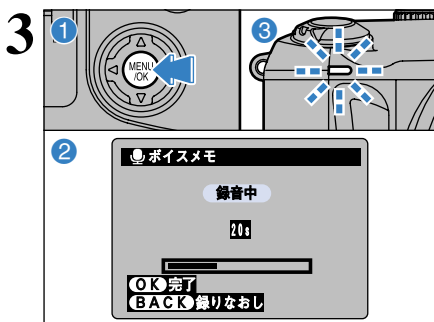
ボイスメモ

1

ボイスメモをONにすると、画面に“🎤”が表示されます。撮影直後にその画像に対して最長30秒間の音声メモ（コメント）が付けられます。
ただし、連写設定時は使用できません。

●録音形式：WAVE（➡87ページ）
　　　　　PCM記録形式
●音声ファイルサイズ：約240KB（30秒録音時）

2

通常どおり撮影します。
撮影後に“録音スタンバイ”と画面に表示されます。

❗録音しない場合は“BACK”ボタンを押します。ただし画像は記録されます。

カメラ前面のマイク（➡7ページ）に向かって録音してください。約20cm離れるとうまく録音できます。

3

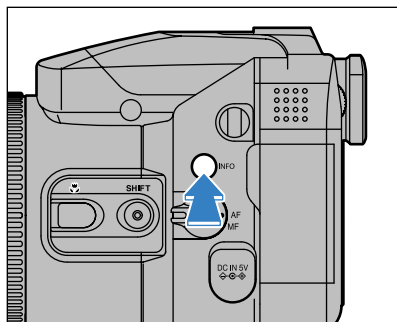
❶“MENU/OK”ボタンを押すと録音が開始されます。
❷録音中は画面に残り時間が表示され、セルフタイマーランプが点滅します。
❸残り時間が5秒になると、セルフタイマーランプが早く点滅します。

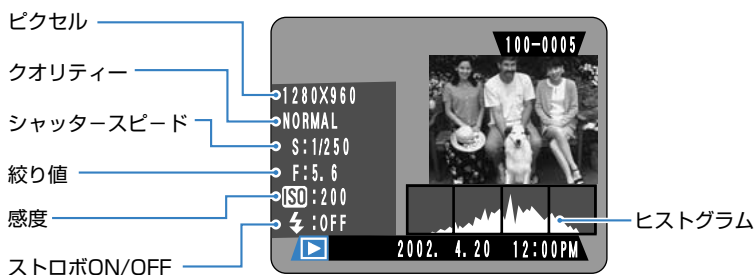
❗メディアの空き容量によっては、録音時間が短くなることがあります。
❗途中で完了する場合は“MENU/OK”ボタンを押してください。

4

30秒間録音すると、画面に“録音終了”と表示されます。

完了する場合：“MENU/OK”ボタンを押します。
録りなおしする場合：“BACK”ボタンを押します。

再生インフォメーション

撮影時の情報を確認することができます。
“INFO”ボタンを押している間のみ確認できます。

マルチ再生中（➡25ページ）は使用できません。

◆ヒストグラム表示について◆

ヒストグラムとは明るさの分布をグラフ（横軸：明るさ/縦軸：ピクセルの数）に表したものです。
① 適正露出の場合：全体的にピクセルの数が多く山なりに分布します。
② 露出オーバーの場合：ハイライトのピクセルの数が多く右に偏ります。
③ 露出アンダーの場合：シャドーのピクセルの数が多く左に偏ります。

被写体によってグラフ形状は異なります。

ムービー（動画）再生

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“◀▶”でムービーファイルを選びます。

100-0006
▼再生
2002. 4. 20 12:00PM

❗マルチ再生ではムービー再生できません。“DISP”ボタンで1コマ再生にしてください。

“🎥”のアイコンで表示されます。

2

❶“▼”を押すと再生されます。
❷画面に再生時間とバーが表示されます。

▲停止 ▼一時停止
0010s

❗スピーカーをふさがないでください。
❗音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください（➡19ページ）。
❗高輝度の被写体を撮影した場合、再生時に縦に白いスジが入ることがありますが故障ではありません。

■ムービー再生操作方法

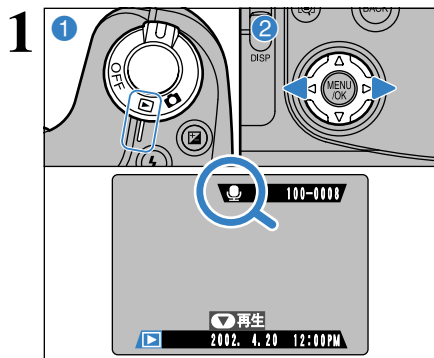
	操　作	説　明
再生	▼	再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除	▼	再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止	▲	再生を停止します。 ※停止中に“◀▶”を押すと次のファイルに送られます。
早送り/巻き戻し	◀▶	再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。
コマ送り	◀▶ 一時停止中	●一時停止中に“◀”または“▶”を押すたびに1コマずつ送られます。 ●押し続けると速く送られます。

＊パソコンでの再生については別冊：ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

◆再生できるムービーファイルについて◆

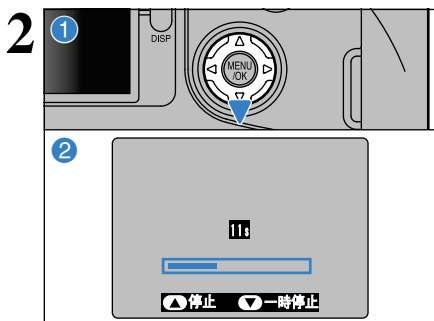
本機で記録したムービーファイル、または弊社製デジタルカメラで3.3V仕様のスマートメディア、またはマイクロドライブに記録したムービーファイルが本機で再生できます。

ボイスメモ再生

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“◀▶”でボイスメモ付き画像ファイルを選びます。

マルチ再生ではボイスメモ再生できません。“DISP”ボタンで1コマ再生にしてください。

“🎤”のアイコンで表示されます。

2

❶“▼”を押すと再生されます。
❷画面に再生時間とバーが表示されます。

スピーカーをふさがないでください。
音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください（➡19ページ）。

■ボイスメモ再生操作方法

	操　作	説　明
再生	▼	再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除	▼	再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止	▲	再生を停止します。 ※停止中に“◀▶”を押すと次のファイルに送られます。
早送り/巻き戻し	◀▶	再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。 ※一時停止中は操作できません。

＊パソコンでの再生については別冊：ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

◆再生できるボイスメモファイルについて◆

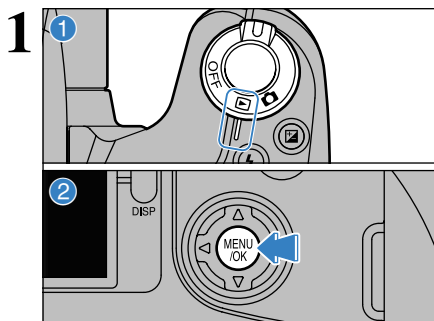
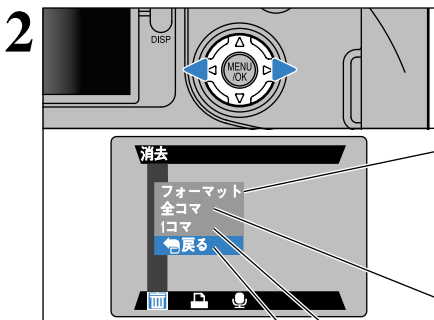
本機で記録したボイスメモファイル、または弊社製デジタルカメラで3.3V仕様のスマートメディア、またはマイクロドライブに記録した30秒以内のボイスメモファイルが本機で再生できます。

再生メニュー

🗑 1コマ・全コマ消去/フォーマット

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

2

“◀▶”で“🗑”を選びます。

フォーマット

すべてのファイルを消去します。
メディアをカメラ用に初期化します。
消去したくないファイルは、パソコンなどにコピーしてください。

全コマ

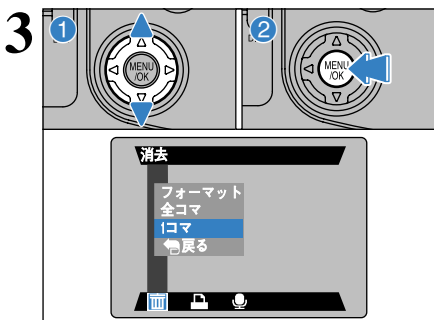
すべてのファイルを消去します。消去したくないファイルは、パソコンなどにコピーしてください。

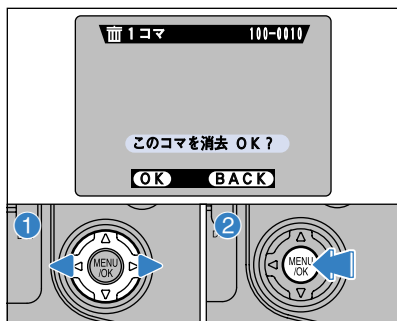
1コマ

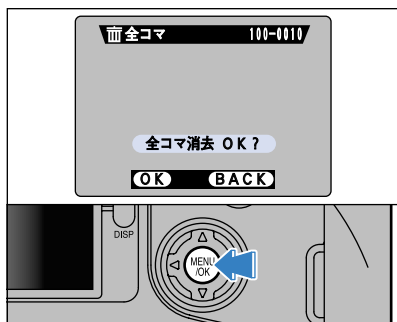
選んだファイルだけを消去します。

戻る

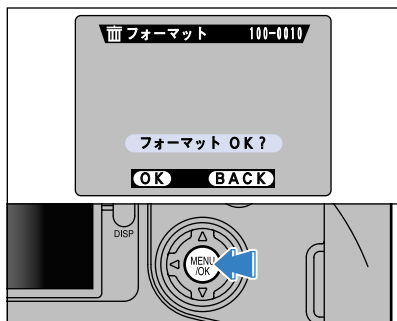
消去せずに再生に戻ります。

3

❶“▲▼”で“1コマ”、“全コマ”か“フォーマット”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

1コマ

❶“◀▶”で消去するファイルを選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押すと表示中のファイルを消去します。

続けて消去するには❶❷を繰り返します。
消去を終えるには“BACK”ボタンを押します。

全コマ

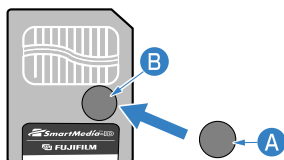
“MENU/OK”ボタンを押すとすべてのファイルを消去します。

“プリント予約されています”が表示された場合、ファイルを消去するには“MENU/OK”ボタンをもう一度押します。

フォーマット

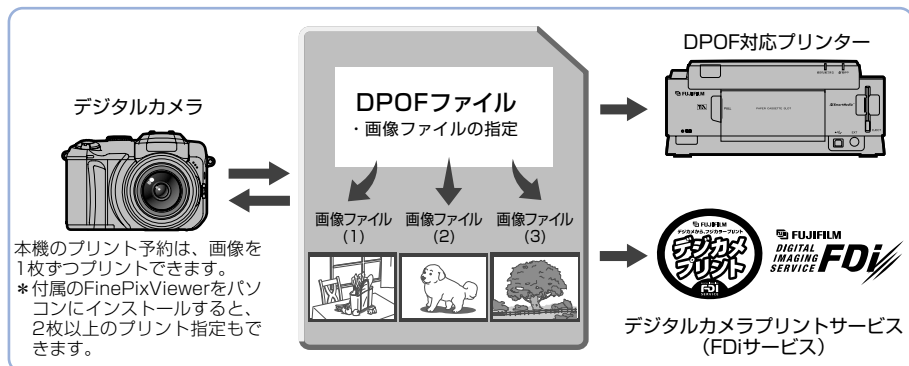
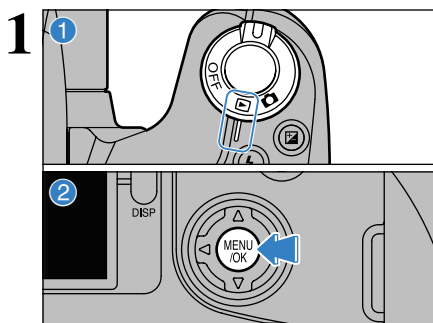
“MENU/OK”ボタンを押すとすべてのファイルが消去され、メディアが初期化されます。

! “! CARD ERROR” “! WRITE ERROR” “! READ ERROR” “! CARD NOT INITIALIZED”が表示された場合は、フォーマットする前に82ページを参照し、対処してください。

◆スマートメディア™の誤記録防止について◆

ライトプロテクトシールをはると、画像の記録/消去・フォーマットができません。シールをはがすと通常どおり使用できます。ライトプロテクトシールは、別売のスマートメディアに同梱されています。

＊必ず専用のライトプロテクトシールⒶを、ライトプロテクトエリア内Ⓑに、はみ出さないようにしっかりとはってください。はがしたシールの再利用はできません。
＊シールの端で手を切らないようにご注意ください。
＊シールが汚れていると誤記録防止されないことがあります。
＊スマートメディアについて、詳しくは81ページをご参照ください。

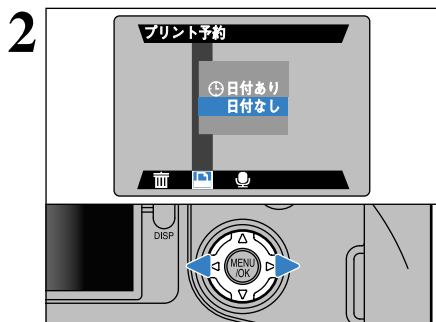
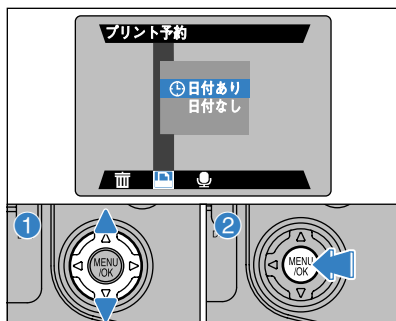
プリント予約

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報をメディアに記録するときの形式です。

- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作でメディアに記録することができます。
- DPOF情報を記録したメディアを、フジフイルム デジタルカメラプリントサービス（FDiサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。対応メディアについては、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお問い合わせください。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

1

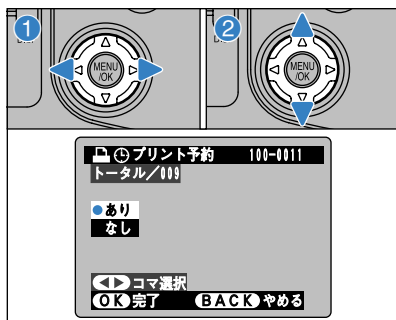
❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

2

“◀▶”で“🖨”プリント予約を選びます。

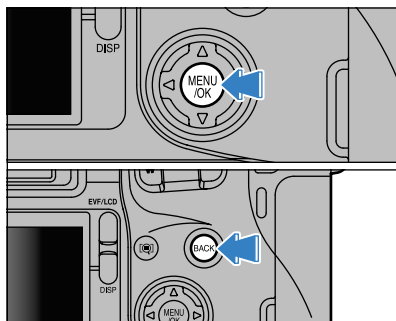
3

❶“▲▼”で“日付あり”か“日付なし”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

プリント予約するすべてのコマに有効です。

4

❶“◀▶”で設定するコマを表示します。
❷プリントするコマに“▲▼”で“あり”を選びます。

続けて設定するには、❶❷を繰り返します。
プリント予約したいコマの設定が終わるまでは“MENU/OK”ボタンを押さないでください。

❗ムービー（動画）はプリント予約できません。
❗“トータル”はプリント指定したコマ数の合計です。

5

設定が終了したら、必ず“MENU/OK”ボタンを押して決定してください。
“BACK”ボタンを押すとプリント予約されません。

❗指定できるプリント枚数は1コマにつき1枚です。
また、同一メディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。

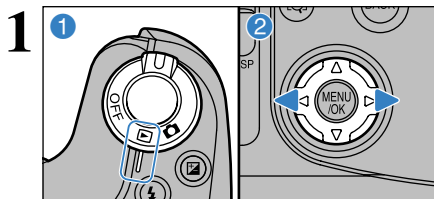
“MENU/OK”ボタンを押すとすべてが決定されます。

◆プリント予約の変更はできません◆

すでにプリント予約されたコマがある場合は“プリント予約再設定ＯＫ？”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押すと、すでにプリント予約された設定はすべて消去されます。
新たにプリント予約をやり直す必要があります。

❗“BACK”ボタンを押すと設定を変更しません。
❗前回の設定は再生時に“🖨”が表示され確認できます。

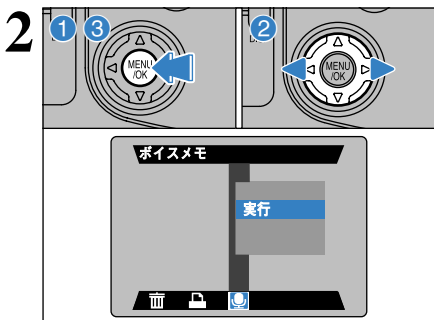
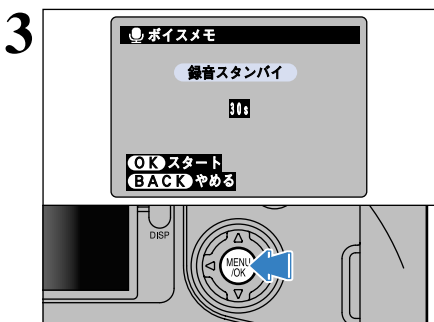
ボイスメモ（録音）

1

静止画にボイスメモを付けることができます。

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“◀▶”でボイスメモを付けたい画像（静止画）を選びます。

2

❶“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“◀▶”で“🎙”を選びます。
❸“MENU/OK”ボタンを押します。

3

画面に“録音スタンバイ”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押すと録音が開始されます。

カメラ前面のマイク（➡7ページ）に向かって録音してください。約20cm離れるとうまく録音できます。

4

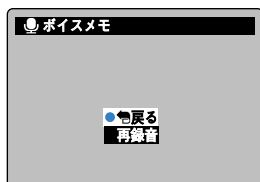
録音中は画面に残り時間が表示され、セルフタイマーランプが点滅します。
残り時間が5秒になると、セルフタイマーランプが早く点滅します。

❗途中で完了する場合は“MENU/OK”ボタンを押してください。

5

30秒間録音すると、画面に "録音終了" と表示されます。

完了する場合："MENU/OK" ボタンを押します。
録りなおす場合："BACK" ボタンを押します。

◆すでにボイスメモがあるときは◆

ボイスメモ付きの画像を選んだときは、再録音するかどうか選択画面が表示されます。

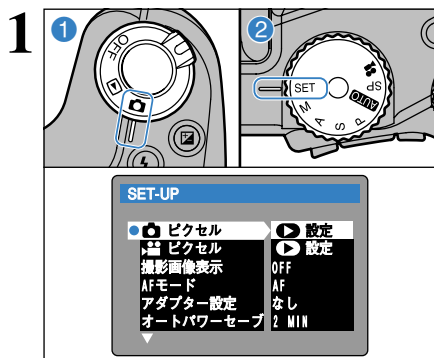
応用編 再生

SET-UP（セットアップ）

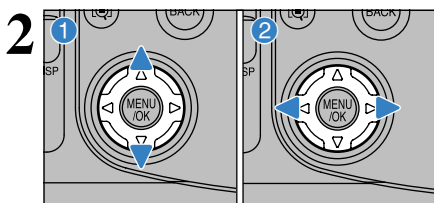
■SET-UPメニュー一覧

項　目	表　示	工場出荷時	内　　容
ピクセル	▶設定	1M NORMAL	画像撮影時の記録するピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）を設定できます。詳しくは67ページ参照。
ピクセル	▶設定	VGA	動画撮影時の記録するピクセル（画像サイズ）を設定できます。詳しくは67ページ参照。
撮影画像表示	OFF/ON/プレビュー	OFF	撮影後にプレビュー画面（撮影結果）を表示するかどうか設定できます。詳しくは68ページ参照。
AFモード	AF/エリア選択AF	AF	オートフォーカスの方法を設定できます。詳しくは69ページ参照。
アダプター設定	あり/なし	なし	コンバージョンレンズを使用するときに設定します。詳しくは70ページ参照。
オートパワーセーブ	2MIN/5MIN/OFF	2MIN	何も操作していないときに消費電力を抑え、その後、自動的に電源を切るかどうか設定できます。詳しくは71ページ参照。
USB設定	カードリーダー/PCカメラ	カードリーダー	詳しくは73ページ参照。
操作音	LOW/HIGH/OFF	LOW	操作したときの音量を設定できます。
優先メディア設定	/		スマートメディアとマイクロドライブが入っているときに、使用するメディアを設定します。
日時設定	▶設定	−	日付、時刻を設定できます。詳しくは14ページ参照。
オールリセット	▶実行	−	日時設定、カスタムホワイトバランス、EVF/LCDの設定を除く、すべての設定を工場出荷設定にリセットします。"▶"を押すと確認画面が表示されるので、よければもう一度"MENU/OK"ボタンを押します。

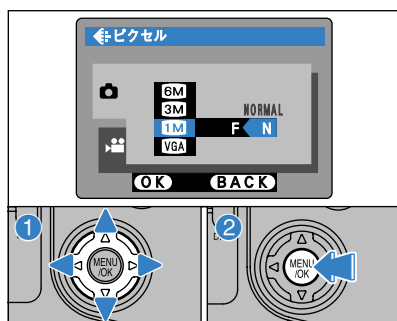
SET セットアップ画面の操作

1

❶電源レバーを" "に合わせます。
❷モードダイヤルを"SET"に合わせSET-UP画面を表示します。

電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずに電池カバーを開けたりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

2

❶"▲▼"で項目を選択します。
❷"◀▶"で設定を変更できます。

"ピクセル""日時設定""オールリセット"は"▶"を押します。

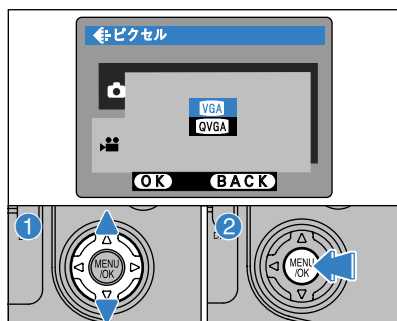
ピクセル

❶"▲▼"でピクセル設定を変更し、"◀▶"でクオリティー設定を変更します。
❷"MENU/OK"ボタンを押して決定します。

◆静止画ピクセル設定について◆

4種類のピクセル（画像サイズ）と、4種類のクオリティーの組み合わせを選べます。下記の表を目安にお試しいただき、目的に応じた設定をしてください。
画質を優先する場合は"HI""FINE"を、枚数を優先する場合は"BASIC"を選んでください。
通常は"NORMAL"で十分な画質が得られます。

クオリティー／ピクセル	HI	FINE	NORMAL	BASIC
6M (2832×2128)	❶	❶	❶	❷
3M (2048×1536)	—	❷	❷	—
1M (1280×960)	—	❸	❸	—
VGA (640×480)	—	—	❹	—

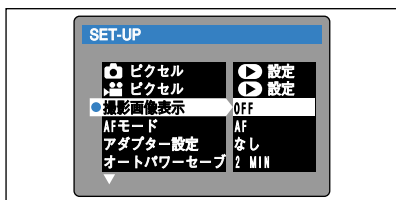
❶：A4サイズ程度でプリントする場合や、画像の一部をトリミングしてA5/A6サイズ程度でプリントする場合。
❷：A5サイズ程度でプリントする場合や、画像の一部をトリミングしてA6サイズ程度でプリントする場合。
❸：A6サイズ程度でプリントする場合。
❹：Eメールの画像添付用などインターネットで使用する場合。

ピクセル

❶"▲▼"でピクセル設定を変更します。
❷"MENU/OK"ボタンを押して決定します。

◆動画ピクセル設定について◆

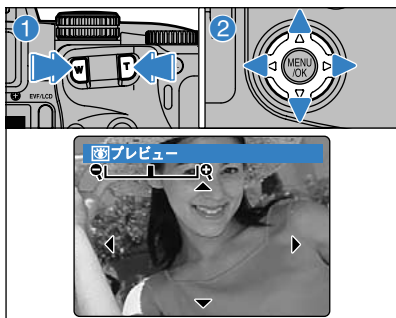
2種類のピクセル（動画サイズ）を選べます。画質を優先する場合は"VGA"を、撮影時間を長くする場合は"QVGA"を選びます。

	ピクセル
VGA	640×480
QVGA	320×240

撮影画像表示

撮影後に撮影結果を表示するかしないか設定できます。

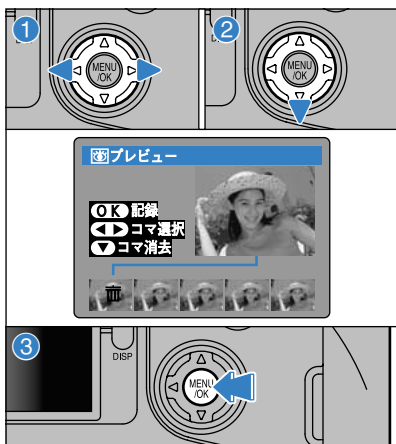
❗連写・サイクル連写・オートブラケティングでは、“OFF” に設定しても一定時間表示され、自動的に記録されます。

OFF　　　：撮影結果は表示されず、自動的に記録されます。
ON　　　 ：撮影結果が約2秒間表示され、自動的に記録されます。
プレビュー：撮影結果が表示され、記録するかどうか選べます。
- ●記録する：“MENU/OK” ボタンを押します。
- ●記録しない：“BACK” ボタンを押します。

また、プレビューズームや記録画像の選択が可能です。

プレビューズーム

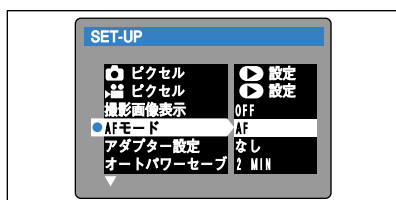
プレビュー設定のとき、画像を拡大して細部の確認ができます。

❶ズームボタンでズームします。
❷“▲▼◀▶” で見える範囲を移動できます。

❗プレビューではトリミング保存はできません。
❗再生ズーム（➡26ページ）と操作は同じです。

記録画像の選択

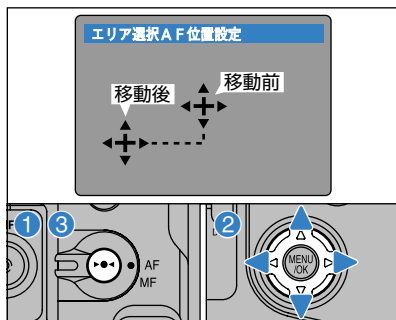
プレビュー設定のとき、連写・サイクル連写・オートブラケティングでは画像を選んで記録できます。ただしプレビューズームはできません。

❶“◀▶” で記録しない画像を選びます。
❷“▼” で “🗑” マークが表示/非表示されます。
“🗑”マークを表示した画像は記録されません。記録しない画像すべてに “🗑” マークを表示します。
❸“MENU/OK” ボタンを押して画像を記録します。

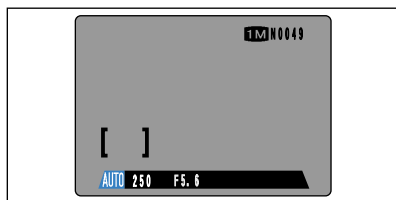
AFモード

ピント合わせの方法を設定できます。

AF オートフォーカス：画面中央でピント合わせを行います。
エリア選択AF　　　：画面内でピントを合わせる位置を変えることができます。三脚に固定して構図を決めてから、ピントを合わせる位置を変えるときなどに使用します。

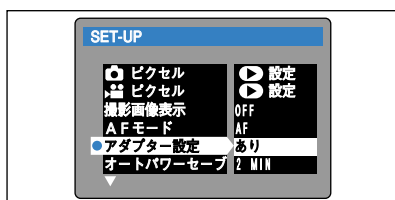
エリア選択AFにすると、フォーカス確認機能は使えません。

1

エリア選択AF

❶“✣”（ターゲットポイント）を、“▶●◀”ボタンを押しながら、❷“▲▼◀▶”で、ピントを合わせたい位置に移動します。
❸“▶●◀”ボタンから指を離します。

2

ターゲットポイントを移動した位置にAFフレームが表示されます。
通常どおりシャッターボタンを半押ししてから撮影します。
AFフレームを再度移動するときは、手順**1**の操作を行ってください。

AFフレームの位置にかかわらず、露出合わせは常に画面中央付近で行われます。主被写体に露出を合わせるときは、AEロックの使用をおすすめします。

アダプター設定

あり：コンバージョンレンズを使用するときに設定します。設定すると“ ”が表示されます。

なし：コンバージョンレンズを使用しないときに設定します。

正しく設定しないとピントが合わないことがあります。

◆コンバージョンレンズ/アダプターリングの紹介◆

ワイドコンバージョンレンズ WL-FX9

ワイドコンバージョンレンズと、アダプターリングのセット。レンズのF値を変えずに焦点距離を0.79倍（広角：28mm相当）に変換します。また、ワイドコンバージョンレンズを外すと市販のフィルターを使用できます。

- ワイドコンバージョンレンズ仕様
  倍率：0.79倍　レンズ構成：3群3枚
  外形寸法：φ70mm×32mm　質量：約185g
  付属品：アダプターリングAR-FX9（仕様は下記参照）、レンズキャップ（前後）、レンズポーチ

広角側（28mm～46mm相当）での使用をおすすめします。望遠側ではゆがみが大きくなります。
ワイドコンバージョンレンズ使用時は内蔵ストロボを併用できません。

アダプターリング AR-FX9

市販のフィルターを使用する場合に必要です。

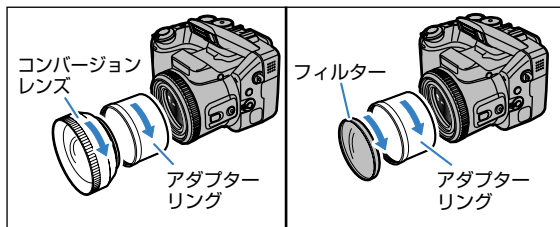
- アダプターリング仕様
  使用できるフィルター：φ55mmの市販フィルター
  外形寸法：φ58mm×39mm　質量：約30g

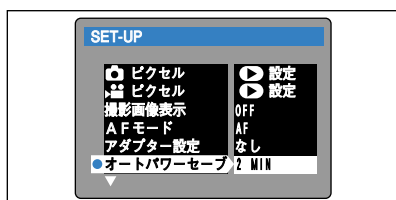
フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。

テレコンバージョンレンズ TL-FX9

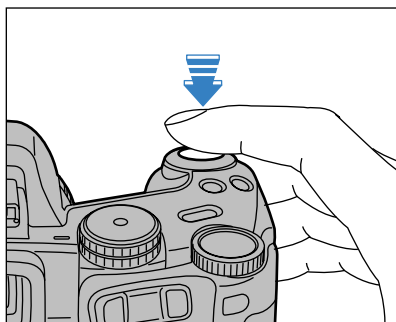
レンズのF値を変えずに焦点距離を1.5倍に変換します。

- テレコンバージョンレンズ仕様
  倍率：1.5倍　レンズ構成：3群3枚
  外形寸法：φ65mm×55mm　質量：約100g
  付属品：レンズキャップ（前後）、レンズポーチ

別途アダプターリングAR-FX9をご用意ください。
望遠側のケラレのない領域での使用をおすすめします。広角側では画像のケラレが生じます。
テレコンバージョンレンズ使用時は内蔵ストロボを併用できません。

アダプターリングとコンバージョンレンズ、市販フィルターは、矢印方向にねじ込んで取り付けます。

オートパワーセーブ

本機能を有効にすると、約30秒間操作をしないと一時的に画面などを消し、消費電力を抑えます（スリープ）。その後、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。電池の駆動時間をできるだけ長くしたいときに使用します。

! USB接続時はオートパワーセーブは無効になります。

セットアップと再生モードではスリープは機能しませんが、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。

スリープしているときに、シャッターボタンを半押しすると、撮影可能状態に復帰します。電源をON/OFFするよりも、素早く撮影可能になるので便利です。

! シャッターボタン以外のボタンでも復帰できます。

◆再度電源を入れるには◆

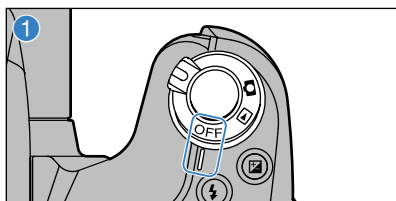
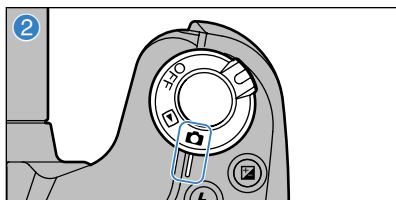
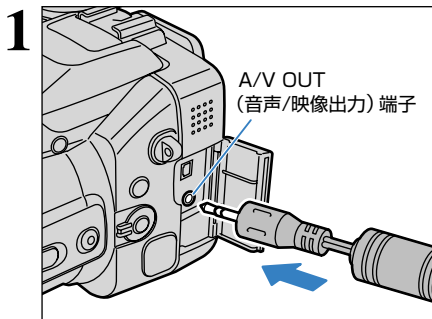
❶電源レバーを“OFF”に合わせます。

❷電源レバーを“📷”または“▶”に合わせます。

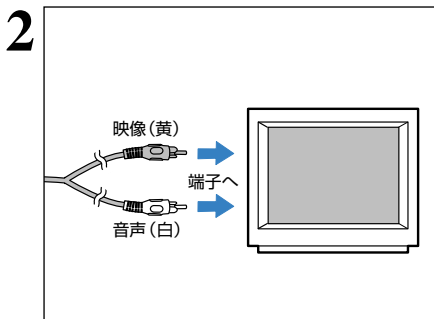
設定編

テレビに接続する/ACパワーアダプターを使う(別売)

テレビ接続する

1

カメラとテレビの電源を切ります。端子カバーを開け、カメラの“A/V OUT(音声/映像出力)”端子にA/Vケーブル(付属品)のプラグを接続します。

! コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプター AC-5Vを接続することをおすすめします。

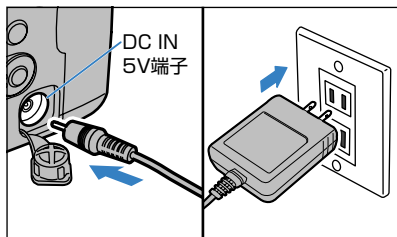
2

テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

! テレビの映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

ACパワーアダプターを使う(別売)

ACパワーアダプター AC-5Vを接続すると、電池の消耗を気にせず撮影・再生(テレビ接続時など)・パソコンと接続することも可能ですので、旅行先などで便利です。

●使用可能なACパワーアダプター
型名:AC-5VH、AC-5VS、AC-5VN、AC-5V

! 使用説明書では「ACパワーアダプター AC-5V」と表記しています。
! AC-5VH、AC-5VS、AC-5VNは海外で使用できます(➡80ページ)

カメラの電源が切れていることを確認します。DC IN 5V端子カバーを開け、ACパワーアダプターの接続プラグを“DC IN 5V”端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

! 弊社専用品以外をご使用になった場合の不具合は保証いたしかねます。
! ACパワーアダプターについてのご注意は80ページをご参照ください。

パソコンと接続するには

USB接続で利用できる機能の概要と接続方法を説明します。あわせて別冊のソフトウェア取扱ガイドをご覧ください。

カメラをパソコンに初めて接続する際は

接続する前に、ソフトウェアをすべてインストールしておく必要があります。
あわせてソフトウェア取扱ガイドをご覧ください。

CD-ROM
「Software for FinePix」

ソフトウェア取扱ガイド

カードリーダー機能について

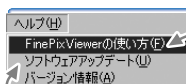
メディアから簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェース接続により、高速にファイル転送が行えます（➡74ページ）。

PCカメラ機能について

インターネット接続されたパソコン同士でテレビ電話（“PictureHello”）が楽しめます。また動画をパソコンで記録できます（➡75ページ）。

- **テレビ電話（“PictureHello”）はMacintoshに対応していません。**
- Mac OS X（Classic環境を含む）では、PCカメラ機能を利用できません。Mac OS 8.6〜9.2をご使用ください。

ヘルプ(H)
FinePixViewerの使い方(F)
ソフトウェアアップデート(U)
バージョン情報(A)

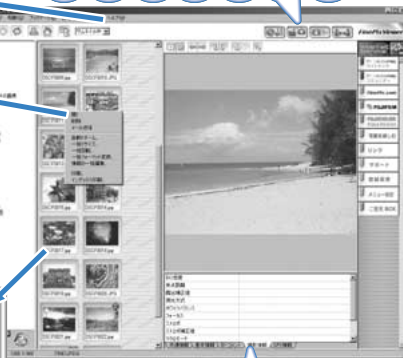
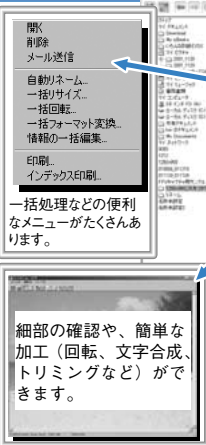
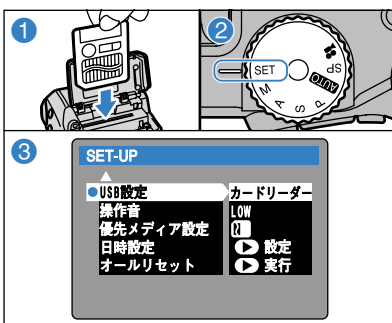
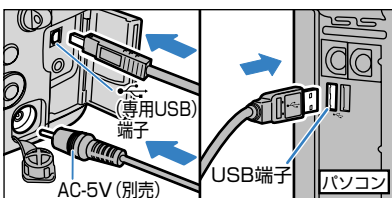
詳しい使い方を調べることができます。
このメニューを実行するには、AcrobatReaderが必要です。

最新のFinePixViewerを手に入れることができます。

自動取り込み　スライドショー　テレビ電話

FinePix CD Album Maker
画像の整理と、CD−Rへの書き込みをお手伝いします。
大切な人にメッセージを添えて贈りましょう

開く
削除
メール送信
自動リネーム...
一括リサイズ...
一括回転...
一括フォーマット変換...
情報の一括編集...
印刷...
インデックス印刷...

一括処理などの便利なメニューがたくさんあります。

細部の確認や、簡単な加工（回転、文字合成、トリミングなど）ができます。

共通情報　基本情報　ID・コメント　撮影情報
撮影条件などを調べたり、比較を行ったりできます。

接続編

カードリーダー接続方法

1

❶撮影したメディアをカメラにセットします。
❷モードダイヤルを“SET”に合わせてから、電源レバーを“📷”に合わせます。
❸SET-UPの“USB設定”を“カードリーダー”にしてから（➡66ページ）、電源を切ります。

❗ACパワーアダプターAC-5V（別売）を使った接続をおすすめします（➡72ページ）。ファイル通信中に電源が切れると、正常なファイルの転送ができません。
❗スマートメディアとマイクロドライブを同時にセットした場合は、「優先メディア」として設定されているメディアが使用されます（➡66ページ）。

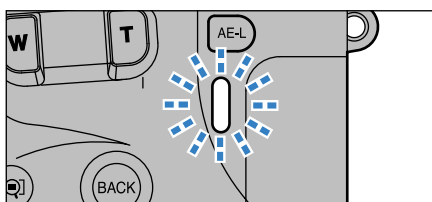
2

❶パソコンの電源を入れます。
❷専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続します。
❸カメラの電源を入れます。

カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください（➡76ページ）。

Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
＊パソコンがカメラを認識しない場合は、ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

❗Windows XPおよびMac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です（➡別冊のソフトウェア取扱ガイド）。
❗専用USBケーブルは向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

カメラの動作

- カメラとパソコンが通信中のときは、インジケーターランプが、緑/橙に交互点滅します。
- 画面には“カードリーダー”と表示されます。
- USB接続時はオートパワーセーブしません。

❗メディアの交換は、必ず76ページの手順でカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。
❗通信中はUSBケーブルを取り外さないでください。取り外しかたについては、76ページをご参照ください。

パソコンの動作

- FinePixViewerが自動的に起動します。

＊Windows 98 SE の画面です。

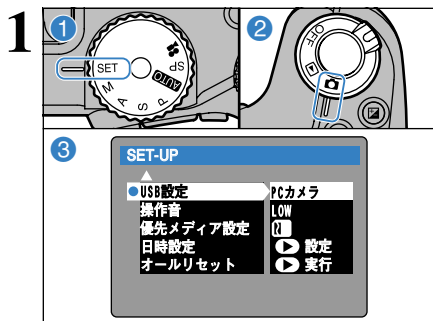
- リムーバブルアイコンが表示され、パソコンでファイルの読み出し、書き込みができます。

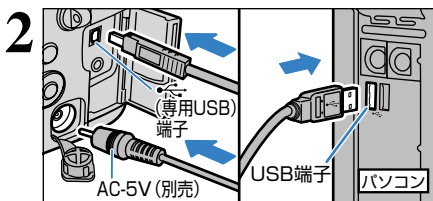
Windows　　Macintosh

リムーバブル ディスク　　名称未設定

上記の動作が確認できない場合、必要なソフトウェアがうまくインストールできていません。別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照して、パソコンでの準備を完了してから、もう一度接続してください。

PCカメラ接続方法

1

❶モードダイヤルを“SET”に合わせます。
❷電源レバーを“📷”に合わせます。
❸SET-UPの“USB設定”を“PCカメラ”にしてから(➡66ページ)、電源を切ります。

ACパワーアダプターAC-5V(別売)を使った接続をおすすめします(➡72ページ)。データ通信中に電源が切れると、正常なデータの転送ができません。

2

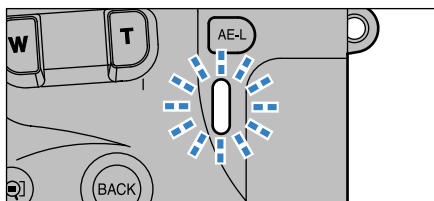
(専用USB)端子
AC-5V(別売)
USB端子
パソコン

❶パソコンの電源を入れます。
❷専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続します。
❸カメラの電源を入れます。

カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください(➡76ページ)。

Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
＊パソコンがカメラを認識しない場合は、ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

専用USBケーブルは向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

カメラの動作

- カメラとパソコンが通信中のときは、インジケーターランプが、緑/橙に交互点滅します。
- レンズが広角側に固定されます。
- 画面には“PCカメラ”と表示されます。
- USB接続時はオートパワーセーブしません。

USB設定をPCカメラにして電源を入れると、液晶モニターやテレビの画面の色味が変わることがあります。

通信中はUSBケーブルを取り外さないでください。取り外しかたについては、76ページをご参照ください。

パソコンの動作

- FinePixViewerが自動的に起動し、PictureHelloが開きます(Windowsのみ)。

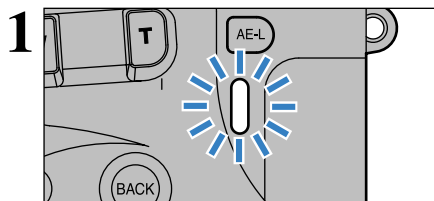
＊Windows 98 SEの画面です。

- VideoImpressionでライブ画像を見ることができます。

＊Macintoshの画面です。

上記の動作が確認できない場合、必要なソフトウェアがうまくインストールできていません。別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照して、パソコンでの準備を完了してから、もう一度接続してください。

パソコンと接続を切るには（必ず行ってください）

1

❶カメラを利用しているアプリケーション（FinePixViewer、VideoImpressionなど）をすべて終了します。
❷インジケーターランプが緑色に点灯していること（パソコンと通信していないこと）を確認します。

カードリーダー接続の場合は、**2**に進みます。PCカメラ接続の場合は、**3**に進みます。

! パソコンで“コピー中”の表示が消えても、カメラと通信中の場合があります。必ずカメラのインジケーターランプが緑色に点灯していることを確認してください。

2 カメラの電源を切る前の作業を行います。この手順は、ご使用のOS（パソコン）によって違います。

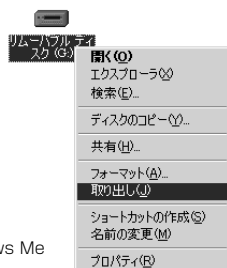
Windows 98/98 SE

パソコンでの操作は必要ありません。

Windows Me/2000 Professional/XP

❶マイコンピュータの中の“リムーバブルディスク”アイコンを右クリックし、取り出しをクリックします。

＊この操作はWindows Meのみ必要です。

❷タスクバー上の取り外しアイコンを左クリックします。

＊Windows Meの画面です。

❸下図のメニューが表示されますので、メニュー上をクリックします。

USB ディスク - ドライブ (G:) の停止

＊Windows Meの画面です。

❹“ハードウェアの取り外し”ダイアログが表示されますので、“OK”ボタンかクローズボタンをクリックしてください。

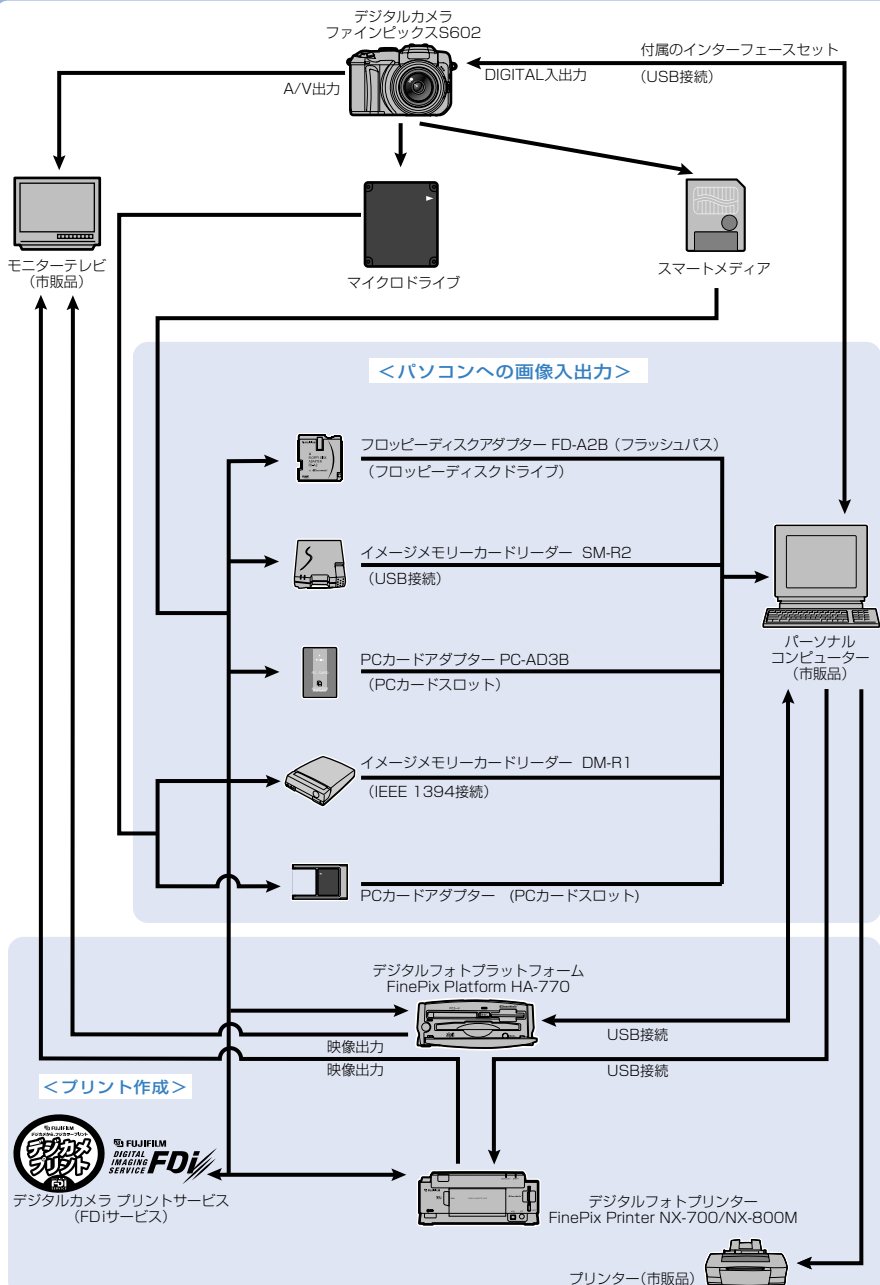
Macintosh

デスクトップの“リムーバブルドライブ”アイコンを、ゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

! ゴミ箱にドラッグ＆ドロップすると、カメラの液晶モニターに“REMOVE OK”と表示されます。

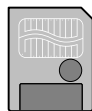
3 カメラの電源を切り、専用USBケーブルを取り外します。

システムアップ機器（別売）（平成14年4月現在）

▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

その他 別売アクセサリーの紹介（平成14年4月現在）

▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。
※最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。　http://www.fujifilm.co.jp/
※価格はメーカー希望小売価格、消費税別です。

●イメージメモリーカード（スマートメディア™）
以下の種類がお使いいただけます。
- MG-4SB：4MB、3.3V仕様
- MG-8SB：8MB、3.3V仕様
- MG-16SB：16MB、3.3V仕様
- MG-32SB：32MB、3.3V仕様
- MG-16SW：16MB、3.3V仕様（ID付き）
- MG-32SW：32MB、3.3V仕様（ID付き）
- MG-64SW：64MB、3.3V仕様（ID付き）
- MG-128SW：128MB、3.3V仕様（ID付き）

＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

※すべてオープン価格

●マイクロドライブキット MK-1/MK-2
IBM製の小型のハードディスクドライブで、容量が340MB/1GBあり、大量の画像を保存することができます。
専用PCカードアダプターが付属しています。

※すべてオープン価格

●ACパワーアダプター AC-5VH
長時間の撮影・再生時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100～240V、50/60Hz対応）

※4,000円

●単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素1700」（HR-AA）
高容量の単3形ニッケル水素電池です。
4本パック「型名 HR-AA/4B」をお買い求めください。

※4本セット HR-AA/4B 1,980円

●ニッケル水素/ニカド急速充電器80（FNH）
ニッケル水素電池「ニッケル水素1700」2本を約90分間で充電できます。
同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です（日本国内使用専用）。

※4,500円

●ニッケル水素/ニカド急速充電器ワールドタイプ スリム（FNW）
ニッケル水素電池「ニッケル水素1700」2本を約115分で充電できます。
同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です（AC100V～240V、50/60Hz対応）。

※4,500円

●フロッピーディスクアダプター FD-A2B（FlashPath：フラッシュパス）
通常の3.5インチのフロッピーディスクと同じ形をしたアダプターです。
スマートメディアをフロッピーディスクアダプターに挿入し、フロッピーディスクドライブからスマートメディアの画像をパソコンに取り込むことができます。
- フロッピーディスクアダプター FD-A2対応OS
  Windows 95/98/98 Second Edition/Me（DOS/V機）
  Windows 95 4.00.950B OSR2以降/98/98 SE（NEC PC-9821シリーズ）
  Mac OS7.6.1～9.1/Power Macintosh（読み込みのみ）

※12,000円

●デジタルフォトプラットフォーム HA-770
スマートメディア、PCカード、Zip 3スロットを装備し、デジタルカメラ画像のアルバム編集、再生機能搭載。パソコン*、テレビ、プリンターに対応したマルチインターフェース。
＊パソコン接続はUSBインターフェース（対応OS：Windows 98（Second Editionを含む）/Windows Me/Windows 2000 Professional、Mac OS 8.5.1～9.1）

※49,800円

●イメージメモリーカードリーダー DM-R1
イメージメモリーカード［スマートメディア、コンパクトフラッシュタイプ II（マイクロドライブ対応）］からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みができます。
IEEE1394インターフェースにより高速なファイル転送を行います。
- Windows98 Second Edition、Windows 2000 Professional（読み出し専用）、iMac DV、およびFireWireを標準装備するPower Macintosh、Mac OS8.5.1～9.1

※オープン価格

●PCカードアダプター PC-AD3B
スマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1）に準拠したPCカード（TYPE II）として使えます。

※10,000円

●ソフトケース SC-FX602
ポリエステル製の専用ケースです。カメラを持ち運ぶときに、ゴミやほこり、軽い衝撃からカメラを保護します。

使用上のご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ
- 極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■冠水・浸水、砂かぶりにご注意

水や砂は本機の大敵です。海辺・水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メディアに水滴がつくことがあります。このようなときはメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、電池、メディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- レンズ、液晶モニター表面やファインダー外部AFセンサーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。

■海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

電源についてのご注意

使用できる電池

- 本機には、単3形アルカリ乾電池や単3形ニッケル水素電池を使用してください。単3形マンガン乾電池、単3形リチウム電池や単3形ニカド電池は、使用できません。
- アルカリ乾電池は銘柄により電池寿命（使用時間）の差があり、本機に付属のアルカリ乾電池に比べ、電池寿命がかなり短い場合があります。

電池についてのご注意

電池の使いかたを誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂の恐れがあります。以下の事項をお守りください。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕と⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池）、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（電池を取り外して放置した場合、各種設定がクリアされます）。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、4本すべてを新しい電池にお取り替えください。新しい電池とは、アルカリ乾電池では「最近購入した未使用のもの」、ニッケル水素電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（＋10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が極端に短くなります。特にアルカリ乾電池はこの傾向がありますので、電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。電池をセットする前に電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃してください。

⚠ 万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

⚠ 電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。

■電池の破棄について

電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

■小形充電式電池（ニッケル水素電池）についてのご注意

- 単3形ニッケル水素電池の充電は、専用の急速充電器（別売）を使用し、急速充電器の「使用説明書」の指示に従って正しく行ってください。
- 急速充電器（別売）では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- ニッケル水素電池は、出荷時には充電されていません。ご使用の前に必ず充電してください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池は使わなくても自己放電しています。ご使用の前に必ず充電してください。また、正常に充電したにもかかわらず、使用できる時間が著しく短くなったときは、電池の寿命です。新しいものをお買い求めください。
- ニッケル水素電池の電極に、皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。この場合は、電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃後、一度使い切ってから充電してください。
- お買上げ時や長い間使用していなかった電池は、十分に充電されないこと（電池残量警告がすぐに表示されて、撮影可能枚数が少ない場合）があります。これは電池の特性によるもので故障ではありません。充電して使用することを3〜4回繰り返すと正常な状態に戻ります。
- ニッケル水素電池の容量が残っている状態で充電を繰り返すと、「メモリー効果*」が発生して早めに電池残量警告が出ることがあります。最後まで使い切ってから充電することで正常な状態に戻ります。
  ＊メモリー効果：電池の容量が見かけ上劣化したような特性を示す現象

■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（ニッケル水素電池など）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。

このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

ACパワーアダプターについてのご注意

極性統一形プラグ

必ず専用のACパワーアダプターAC-5VH/AC-5VS/AC-5VN/AC-5V（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）をお使いください。弊社専用品以外のACパワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。

- 室内専用です。
- カメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- カメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- ACパワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、ACパワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

メディア（スマートメディア™およびマイクロドライブ）についてのご注意

■スマートメディアについて

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像ファイルが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像ファイルを消去したり、再び記録することができます。

■ID付きスマートメディアについて

SmartMedia ID（ID付きSmartMedia）は、スマートメディア個々に（ID）番号を割り振ったもので、IDを利用した著作権保護、その他の仕組みを持つ機器で使用できます。本機では、従来のスマートメディアと同様に使用できます。

■マイクロドライブについて

Microdrive（マイクロドライブ）は小型/軽量のハードディスク・ドライブでCF+Type Ⅱに準拠しています。大量の画像ファイルが記録でき、1MBあたりの記録コストも低減するため、高画質な画像をより経済的に保存することができます。

■ファイル保持について

以下の場合、記録したファイルが消滅（破壊）することがあります。記録したファイルの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

＊お客様または第三者がメディアの使いかたを誤ったとき
＊メディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊メディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき
＊メディアを曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしたとき

大切なファイルは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■メディアに共通の取扱上のご注意

- メディアをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メディアが破壊されることがあります。
- メディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- 強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
- 高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。

■スマートメディアの取扱上のご注意

- 指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
- スマートメディアの接触面（金色の部分）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
- スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気による影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。
- 静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- スマートメディアのインデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。スマートメディアの出し入れの際、故障の原因になります。
- スマートメディアのインデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように,はってください。
- 万一、弊社の製造上の原因によるスマートメディアの初期品質不良がありました場合には、同数の新しいスマートメディアとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■マイクロドライブの取扱上のご注意

- マイクロドライブのラベルに記入しないでください。
- マイクロドライブのラベルをはがさないでください。
- マイクロドライブにラベルを重ねてはらないでください。
- マイクロドライブの持ち運びや保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースに入れてください。
- 取り出し機能のないCF+Type Ⅱスロットでは使用しないでください。
- 長時間使用すると熱くなることがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 強い磁気のそばに近づけないでください。
- ぬらさないでください。
- カバーを強く押さないでください。

■メディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのメディアを使って撮影する場合、メディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- メディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
- パソコンでメディアのフォルダ名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。メディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- メディア上の画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像ファイルを編集してください。

スマートメディアの主な仕様

項目	仕様
形式	デジタルカメラ用イメージメモリーカードSmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～+40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm （幅/高さ/厚み）

マイクロドライブの主な仕様

項目	仕様
形式	CF+™ Type Ⅱ
動作電圧	3.3V、5V
使用条件	温度 +5℃～+40℃ 湿度 8%～90%以下（結露しないこと）
外形寸法	42.8mm×36.4mm×5mm （幅/高さ/厚み）

▶画面に表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示	警告内容	処　置
（赤点灯） （赤点滅）	カメラの電池の残容量が少ない。	電池を準備するか、交換してください。
！NO CARD	メディアが入っていない。	●スマートメディア（3.3V仕様）を正しい向きにセットしてください。 ●マイクロドライブを正しくセットしてください。
！CARD NOT INITIALIZED	●メディアがフォーマット（初期化）されていない。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●カメラが故障している。	●メディアをフォーマットしてください。 ●スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
！CARD ERROR	●スマートメディアが正しくセットされていない。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●メディアが壊れている。 ●メディアのフォーマットが異常。 ●カメラが故障している。	●スマートメディアを奥まで差し込み、ロックされるのを確認してください。 ●スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
！CARD FULL	メディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。	画像を消去するか、空き容量のあるメディアを使用してください。
！PROTECTED CARD	スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	誤記録防止状態になっていないスマートメディアを使用してください。
！READ ERROR	●正常に記録されていないファイルを再生した。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●カメラが故障している。 ●FinePix50iで録音したボイスファイルを再生した。	●再生することはできません。 ●スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 ●再生することはできません。
！FILE NO. FULL	コマNo.が999―9999に達している。	フォーマットしたメディアに撮影してください。
！WRITE ERROR	●メディアと本体の接触異常またはメディアの異常のため記録できない。 ●撮影した画像がメディアの空き容量を超えて記録できない。	●メディアを入れ直すか電源のON（入）/OFF（切）を繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 ●新しいメディアを使用してください。
！ERROR	●ボイスメモファイルが異常。 ●カメラが故障している。	●ボイスメモを再生することはできません。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

警告表示	警告内容	処　置
(手ブレマーク)	シャッター速度が遅く、手ブレを発生しやすい状態。	ストロボ撮影する。ただし撮影シーンやモードによっては三脚を使用してください。
! PROTECTED FRAME	プロテクトされているコマを消去しようとした。	プロテクトしたファイルは消去できません。プロテクトしたカメラでプロテクトを解除してください。
! AF	AF（オートフォーカス）がうまく働かない。	● 暗い場合は被写体から2m程度離れて撮影してください。 ● AFロック撮影をしてください。
絞り・シャッタースピード表示（赤点灯）	AE連動範囲外。	撮影できますが、適正露出ではありません。
プリント予約されています このコマを消去しますか？ プリント予約されています 全コマ消去しますか？	削除しようとした画像はプリント指定されている。	画像を削除すると、DPOF指定項目からも同時に設定が削除されます。
プリント予約再設定ＯＫ？	● すでにプリント予約されている。 ● DPOFファイルにエラーがある。または他の機器で設定したDPOFファイルである。	DPOFファイルを新しく作成し、プリント予約をすべてやり直す場合は “MENU/OK” ボタンを押してください。
! DPOF FILE ERROR	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。999コマ以下にしてください。
! ZOOM ERROR ! FOCUS ERROR	カメラが誤作動または故障している。	● レンズ部に触らないようにして、電源を入れ直してください。 ● 電源のON（入）/OFF（切）を繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
! BUSY	パソコンでフォーマットしたメディアで撮影したため、記録が間に合わなくなった。	カメラでフォーマットしたメディアをお使いください。

困ったときは

▶故障とお考えになる前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
電源が入らない。	●電池が消耗している。 ●電池の向きが逆に入っている。 ●ACパワーアダプターが正しく接続されていない。	●新しい電池か、充電済みの電池と交換してください。 ●電池を正しい方向に入れてください。 ●正しく接続しなおして、電源プラグをコンセントに差し込んでください。
電源が途中で切れる。	●電池が消耗している。	●新しい電池か、充電済みの電池と交換してください。
電池の消耗が早い。	●気温が極端に低いところで使っている。 ●電池の端子が汚れている。 ●電池の端子が汚れている状態で充電した。 ●長期間使用していなかった充電式電池を、充電してから使った。 ●充電式電池の寿命。	●電池をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。ただし、アルカリ乾電池は使用できません。 ●電池をカメラから取り出して、電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてから入れ直してください。 ●電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてから充電してください。 ●電池の特性により、十分に充電されないことがあります。充電して使用することを数回繰り返してください。 ●新しい充電式電池と交換してください。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●電池が消耗している。 ●オートパワーセーブになり電源が切れた。 ●メディアが入っていない。 ●メディアがフォーマットされていない。 ●メディアに空き容量がなくこれ以上記録できない。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。 ●メディアが壊れている（CARD ERROR）。	●新しい電池か、充電済みの電池と交換してください。 ●電源を入れ直してください。 ●メディアを入れてください。 ●フォーマットしてください。 ●空き容量のあるメディアを使うか、不要なコマを消去してください。 ●スマートメディアの接触面を乾いたきれいな布でふいてください。 ●誤記録防止状態を解除してください（ライトプロテクトシールをはがします）。 ●別のメディアを使用してください。
ピント合わせが遅い。	●SET-UPのアダプター設定が“あり”になっている。 ●外部AFセンサーが汚れている。	●アダプターを使用していないときは“なし”にしてください。 ●ブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。
ボイスメモを設定できない。	●連写が設定されている。	●連写を“OFF”にしてください。
セルフタイマーを設定できない。	●MEGA連写、サイクル連写が設定されている。	●MEGA連写、サイクル連写以外の連写モードにするか“OFF”にしてください。
マクロ（近距離）を設定できない。	●シーンポジションの風景、スポーツ、夜景、またはムービーに設定されている。	●シーンポジションをモノクロにするか撮影モードを変更してください。
連写を設定できない。	●ボイスメモが設定されている。 ●多重露光が設定されている。	●ボイスメモを“OFF”にしてください。 ●多重露光を“OFF”にしてください。
ピクセルが1Mで、NORMALとFINEしか選べない。	●MEGA連写に設定されている。	●MEGA連写以外の連写モードにするか、“OFF”にしてください。
ピクセルが1Mで、NORMALしか選べない。	●感度が800または1600（高感度撮影）に設定されている。	●感度を400以下に設定してください。
ストロボ撮影できない。	●ストロボが閉じている。 ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押した。 ●電池が消耗している。	●ストロボをポップアップしてください。 ●ストロボの充電が完了してからシャッターボタンを押してください。 ●新しい電池か充電済みの電池と交換してください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
ストロボ撮影できない。	●シーンポジションの風景に設定されている。 ●連写が設定されている。 ●スーパーマクロが設定されている。	●シーンポジションを変更するか、撮影モードを変更してください。 ●連写を "OFF" に設定してください。 ●スーパーマクロを解除してください。
ストロボの設定を制限されて選べない。	●シーンポジションに設定されている。	●シーンに合わせた設定になるため制限されます。ストロボの設定を重視するときは撮影モードを変更してください。
露出補正を設定できない。	●撮影モードがオート、シーンポジション、マニュアルに設定されている。	●撮影モードを変更してください。
ストロボが発光したのに撮影した画像が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボ/ストロボ調光センサーに指がかかっている。	●ストロボ撮影可能距離内で撮影してください。 ●カメラを正しく構えてください。
ストロボ撮影した画像が白っぽい。	●ストロボ調光センサーが汚れで遮られている。	●細い綿棒などで汚れを取り除いてください。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。 ●マクロを設定したまま、遠景を撮影した。 ●マクロを設定しないで、近距離を撮影した。 ●オートフォーカスの苦手な被写体を撮影した。	●レンズを清掃してください。 ●マクロを解除してください。 ●マクロを設定してください。 ●AF/AEロック撮影してください。
画像に点状のノイズがある。	●気温が高い環境でスローシャッター(長時間露光)撮影した。 ●雪のときやほこりの多い環境でストロボ撮影した。	●CCDの特性によるもので故障ではありません。 ●ストロボの反射で雪やほこりが写ったもので故障ではありません。
カメラから音が出ない。	●カメラの音量設定が小さくなっている。 ●撮影/録音中にマイクをふさいでいる。 ●再生中にスピーカーをふさいでいる。 ●A/Vケーブルを接続している。	●音量を調節してください。 ●撮影/録音時はマイクをふさがないでください。 ●スピーカーをふさがないでください。 ●A/Vケーブルを外してください。
1コマ消去でコマが消せない。 全コマの消去で、すべてのコマが消せない。	●プリント予約されている。 ●コマがプロテクトされている。	●プリント予約を "なし" に設定してください。 ●プロテクトしたカメラでプロテクトを解除してください。
スマートメディアのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	●誤記録防止状態を解除してください(ライトプロテクトシールをはがします)。
テレビに画像、音声が出ない。	●ムービー再生中にA/Vケーブルを接続した。 ●カメラとテレビの接続が間違っている。 ●テレビの入力が「テレビ」になっている。 ●テレビの音量が小さくなっている。	●正しく接続しなおしてください。 ●正しく接続しなおしてください。 ●テレビの入力を「ビデオ」にしてください。 ●音量を調節してください。
PC(パソコン)接続で、カメラの液晶モニターに撮影画面が表示される。	●PCまたはカメラに専用USBケーブルが正しく接続されていない。 ●PCの電源が入っていない。	●正しく接続してください。 ●PCの電源を入れてください。
カメラのスイッチを操作しても正常に作動しない。	●電池が消耗している。 ●カメラの誤作動または予期しない状態になっている。	●新しい電池か充電済みの電池と交換してください。 ●電池、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

主な仕様

システム

●型式：デジタルカメラ
●有効画素数：310万画素
●記録メディア：スマートメディア（3.3V仕様）
　　　　　　　：マイクロドライブ
●記録方式
静止画：DCF準拠（Exif Ver.2.2 JPEG準拠、TIFF-RGB）/DPOF対応
動　画：DCF準拠（AVI形式 Motion JPEG）
音　声：Exif Ver.2.2音声ファイル規定準拠
●記録画素数（ピクセル）
2832×2128/2048×1536/1280×960/640×480
ハニカム信号処理により最大603万画素
●撮像素子：1/1.7型スーパーCCDハニカム
原色フィルター採用（総画素数：330万画素）
●撮像感度：ISO 160、200、400相当（800、1600）
●レンズ：スーパーEBC フジノン光学式6倍ズームレンズ
●焦点距離：7.8mm〜46.8mm
（35mmカメラ換算：35mm〜210mm相当）
●ファインダー：0.44型　18万画素　液晶ファインダー
●露出制御：TTL64分割測光、プログラムAE（AUTO・SP・P・A・S）、露出補正（P・A・S）可能
●ホワイトバランス
AUTO・SP：フルオート
P・S・A：8ポジション可能　カスタムホワイトバランス設定可能（2ポジション）
●撮影可能範囲
標準（広角側）：約50cm〜無限遠
標準（望遠側）：約90cm〜無限遠
マクロ：約10cm〜約80cm
スーパーマクロ：約1cm〜約20cm
●シャッター
AUTO：可変速　1/4秒〜1/2000秒
　（メカニカルシャッター併用）
SP：可変速　3秒（夜景のみ）〜1/2000秒
　（メカニカルシャッター併用）
P・S・A：可変速　3秒〜1/1000秒
　（メカニカルシャッター併用）
M：可変速　15秒〜1/10000秒
　（メカニカルシャッター併用）
●絞り：F2.8〜F11　1/3EVステップ13段
●フォーカス：パッシブ方式外光センサー＋TTLコントラスト方式　オート/マニュアル
●セルフタイマー：タイマー時間　約2秒/約10秒
●消去方式：1コマ消去･全コマ消去･フォーマット（初期化）
●液晶モニター：1.8型　11万画素　低温ポリシリコンTFT
●ストロボ：調光センサーによるオートストロボ
撮影可能距離　広角：約0.3m〜約5.4m
　　　　　　　望遠：約0.9m〜約5.0m
発光モード：オート/赤目軽減/強制発光/スローシンクロ/赤目軽減＋スローシンクロ

■メディア標準撮影枚数　撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル（記録画素数）	6M 2832×2128（約603万）				3M 2048×1536（約315万）		1M 1280×960（約123万）		VGA 640×480（約31万）	ムービー	
クオリティー	HI	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	NORMAL	VGA	QVGA
画像1枚のファイルサイズ	約18MB	約2.4MB	約1.2MB	約460KB	約1.3MB	約590KB	約620KB	約320KB	約130KB	—	—
MG-4S（4MB）	0	1	3	8	2	6	6	12	30	約3秒	約6秒
MG-8S（8MB）	0	3	6	17	6	13	12	25	61	約6秒	約13秒
MG-16S（16MB）	0	6	13	33	12	26	25	49	122	約13秒	約27秒
MG-32S（32MB）	1	13	28	68	25	53	50	99	247	約27秒	約55秒
MG-64S（64MB）	3	26	56	137	50	107	101	198	497	約55秒	約110秒
MG-128S（128MB）	7	53	113	275	102	215	204	398	997	約112秒	約222秒
MK-1（340MB）	19	147	311	765	279	589	566	1119	2729	約307秒	約609秒
MK-2（1GB）	59	443	938	2190	842	1729	1642	3285	8213	約925秒	約1833秒

入・出力端子

●DC入力端子：専用ACパワーアダプター AC-5VH接続
●アクセサリーシュー：ホットシュー
●A/V OUT端子：ステレオミニミニ（φ2.5mm）ジャック

電源部、その他

●電源
アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、または専用ACパワーアダプターAC-5VH使用
●使用条件
温度0℃〜＋40℃　湿度80%以下（結露しないこと）
●電池作動可能枚数

電池の種類 / メディアの種類		アルカリ乾電池	ニッケル水素電池（フル充電時）
スマートメディア	液晶モニター使用時	約200枚	約250枚
	液晶ファインダー使用時	約210枚	約280枚
マイクロドライブ	液晶モニター使用時	約170枚	約230枚
	液晶ファインダー使用時	約180枚	約240枚

撮影枚数は常温でストロボ使用率50%の場合の、連続して撮影できる目安です。ただし、カメラの使用環境温度や電池充電量のバラツキによる変動があります。低温時では作動可能枚数が少なくなります。

●本体外形寸法：
121mm×81.5mm×97.0mm（幅/高さ/奥行き）
＊付属品、突起部含まず
●本体質量：約500g（付属品、電池、スマートメディアまたはマイクロドライブ含まず）
●撮影時質量：約600g（電池、スマートメディア含む）
●付属品：5ページをご覧ください。
●別売アクセサリー：78ページをご覧ください。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニター、液晶ファインダーは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

用語の解説

EV	：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。 CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。
Exif（イグジフ）ファイル形式	：Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダー構造、フォルダー名についての規定を含めて、DCFがJEITA規格になっています。
JPEG（ジェイペグ）	：Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率は選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。
Motion JPEG（モーション ジェイペグ）	：画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマットAVI（Audio Video Interleave）形式の1種類であり、ファイル内の画像はJPEG形式で記録されています。 パソコンでは下記のソフトで再生できます。 Windows　：MediaPlayer　＊DirectX8.0以降必要 Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降
VGA/QVGA	：PCのグラフィック標準のひとつであり、画像サイズが640×480ピクセル/320×240ピクセルを表します。
WAVE（ウェイブ）	：音声を保存するためのWindowsにおける標準フォーマットで、拡張子は“.WAV”です。 記録形式には非圧縮記録と圧縮記録があります。本機ではPCM記録を採用しています。 パソコンでは下記のソフトで再生できます。 Windows　：MediaPlayer Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降
ホワイトバランス	：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能を**オートホワイトバランス**といいます。
スミア	：撮影画面内に太陽やその反射光など非常に明るい輝点があるときに、画像に白いすじが写るCCD特有の現象。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。この期間は保証書の記載内容に基づいて無償修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

本書の「困ったときは」をご覧ください。
使いかたの問題か、故障か迷うときは、弊社DIサポートセンターへお問い合わせください。

■故障と思われるときは

弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。送付方法は、下記の中からお客様のご都合によりお選びください。
①お買上げ店にお持ちいただく
②弊社サービスステーションに宅配便等で送付いただく（送付修理）
③弊社サービスステーションにお持ちいただく（持込修理）
なお、集配ルートの都合上、①の方法よりは、②もしくは③の方法が、お預かりの期間は短くなります。
上記①③の場合の交通費、②の場合の送料などの諸費用はお客様にてご負担願います。

■修理ご依頼に際してのご注意

- 保証規定による修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または弊社サービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。
- 修理品の持込修理/送付修理を弊社サービスステーションに依頼される場合には「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金のお見積もりをご希望の場合は、「修理依頼票」の「お見積もり」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 落下・衝撃、砂・泥かぶり、冠水・浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合は、修理をお断りする場合があります。

■修理部品の保有期間

本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■交換した部品について

交換した部品は、今後の品質向上に役立てるため、弊社にて引き取らせていただいております。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

■修理料金の支払い方法について

①お買上げ店にお持ちいただいた場合
　お持ちいただいたお店にご確認ください。
②弊社サービスステーションに宅配便等で送付いただいた場合（送付修理）
　修理完了品は代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。
③弊社サービスステーションにお持ちいただいた場合（持込修理）修理完了品お引き取りの際、サービスステーション窓口でお支払いください。

FinePix S602 修理依頼票

※弊社サービスステーションに故障品の送付あるいはお持込みの際には、お手数をおかけして申し訳ありませんが、迅速・適切な修理をするために必要事項をご記入の上、製品に添付してください。
※下表の□は、該当する項目にチェック（✓）を入れてください。

フリガナ		電話番号	
お名前		ファクス番号	
ご住所	〒　　―		
ボディ番号（機番） 保証書あるいは本体底面に記載してある7桁もしくは8桁の番号です。修理お問い合わせ時にご連絡ください。	No.		
修理品への添付	□保証書　□スマートメディア（　　MB）　□電池 □（　　）　□（　　） □（　　）　□（　　）		
故障内容（故障時の様子や発生頻度、症状など具体的にご記入ください。）			
お見積もり	□必要（修理金額　　円以上見積もり）　□不要		
お見積もり連絡方法	□電話　□ファクス		

※本紙はコピーしてお使いください。

■修理の受付は…

修理の受付は…

以下に送付修理・持込修理の受付場所を記載します。
修理品をお買上げ店へお持ちいただく場合よりもお預かりの期間は短くなります。

●【送付修理】：サービスステーションに直接ご送付いただく場合

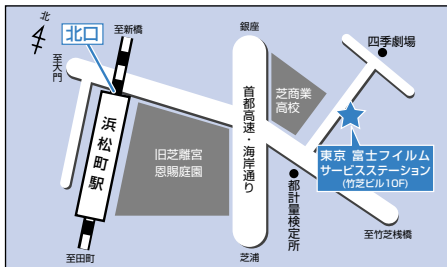
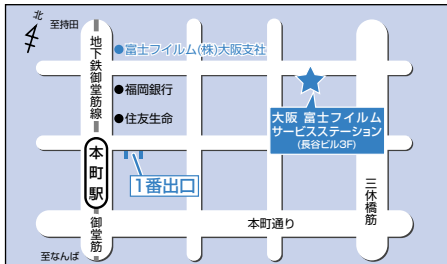
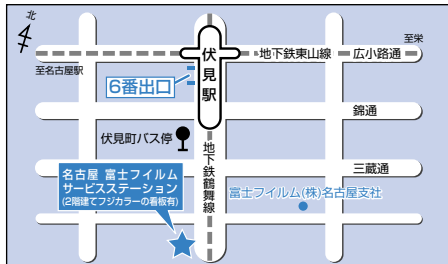
・下記の7カ所のサービスステーションで受け付けております。送付時には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・有償修理の場合の修理料金は代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。

東　京：富士フイルムサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
札　幌：富士フイルムサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙　台：富士フイルムサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
名古屋：富士フイルムサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
大　阪：富士フイルムサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06）6260-0915
広　島：富士フイルムサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福　岡：富士フイルムサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863

●【持込修理】：サービスステーションにお持ちいただく場合

・上記7カ所のサービスステーションで受け付けております。お持ちいただく際には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・【受付時間】月～金 午前9：00～12：00　午後1：00～5：40
・サービスステーションは、土・日・祝日・年末年始は休業させていただきます。その他夏期など休業させていただく場合があります。
・有償修理の場合の修理料金は、修理品お引き取りの際、サービスステーション窓口でお支払いください。
・本書に地図の記載がないサービスステーションは、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/）もしくはFinePixのホームページ（http://www.finepix.com/）をご覧ください。
・東京、大阪のフォトサロンは、上記7カ所のサービスステーションに加えて、修理品の受渡し業務のみを行っております。ただし、修理は行っておりませんので、お急ぎのお客様は、上記7カ所のサービスステーションにお持ちください。

東　京：富士フォトサロン	〒104-0061	東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ	TEL（03）3571-9411
大　阪：富士フォトサロン	〒530-0001	大阪市北区梅田1-9-20 大阪マルビル	TEL（06）6346-0222

★東　京：富士フイルムサービスステーション

JR山手線浜松町駅北口下車　徒歩5分
TEL（03）3436-1315
【受付時間】
月～金　午前 9：00～午後5：40
土　　　午前10：00～12：00　午後1：00～4：00
✻土曜日は修理品の受渡し業務のみ行っております。

★大　阪：富士フイルムサービスステーション

地下鉄御堂筋線本町駅1番出口下車　徒歩5分
TEL（06）6260-0915
【受付時間】月～金　午前9：00～12：00　午後1：00～5：40

★名古屋：富士フイルムサービスステーション

地下鉄東山線伏見駅6番出口下車　徒歩5分
TEL（052）202-1851
【受付時間】月～金　午前9：00～12：00　午後1：00～5：40